平成30年度「市民フォーラム・未来を語る」の記録

もっと

「八王子を元気にする言葉」できました。

2019.3.3　14:00-16:00

ブランドメッセージ発表会&ワークショップ

八王子市

目 次

登壇者プロフィール …… ２

フォーラムの記録

市長あいさつ …… ３

リレートーク① …… ４

ブランドメッセージ＆ロゴマーク発表までカウントダウン！ …… ９

ブランドメッセージ＆ロゴマーク発表！ …… ３２

リレートーク② …… ３４

ワークショップ …… ４１

各グループの「えんたくん」 …… ４２

ワークショップ発表 …… ５０

巻末資料

開催お知らせチラシ

会場でのアンケート結果

はじめに

市では毎年、市政に関わる様々なテーマについて、市長ほか、登壇者、会場の皆様と共に考える「市民フォーラム・未来を語る」を開催しています。

今年のフォーラムは、「『八王子をもっと元気にする言葉』できました。」と題し、昨年８月からの市民ワークショップや、12 月の総選挙を経て決定した「ブランドメッセージ」を発表するとともに、ブランドメッセージ作成に携わった方々のリレートークや、来場者の皆様が参加するワークショップを通してブランドメッセージを活用してまちを盛り上げる方法について考えました。

本冊子は、フォーラムで話された内容や、参加者のご意見をまとめたものです。ぜひご一読いただき、ブランドメッセージを使ってまちをもっと盛り上げるアイデアを考えるきっかけとなれば幸いです。

最後に、貴重なご意見をいただいた登壇者の皆様、そして、会場にお越しいただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

平成 31 年（2019 年）３月

八王子市　総合経営部　広聴課

登壇者プロフィール

河井 孝仁（かわい たかよし）様

東海大学文化社会学部教授。総務省地域情報化アドバイザー、日本広報学会常任理事等。多数の自治体のシティプロモーションに関わる第一人者。八王子市シティプロモーション事業推進アドバイザー

森田 哲生（もりた てつお）様

株式会社 Rockaku（ろっかく）代表取締役。多摩美術大学卒。八王子市楢原町出身のコピーライター。今回のプロジェクトではブランドメッセージのコピーライティングを担当。

加藤 真綾（かとう まや）様

市民ワークショップメンバーとして、ブランドメッセージ作成に関わる。八王子を拠点に、バランスボールインストラクターとして活躍中。

前原 教久（まえはら のりひさ）様

小津町会会長。地域課題の解決のため、「ＮＰＯ法人小津倶楽部」を立ち上げ、古民家のリノベーションによる交流拠点づくりなどを行う。

萩原 修（はぎわら しゅう）様

明星大学デザイン学部教授。
「中央線デザインネットワーク」「国分寺さんち」など、多摩地域を元気にするプロジェクトを推進中。つくし文具店店主。

石森 孝志（いしもり たかゆき）市長

八王子市長（平成 24 年 1 月から）
平成 27 年 4 月に中核市移行を実現。市民の皆様に「いつまでも八王子に住み続けたい」と思っていただける「夢と希望が持てるまちづくり」に全力で取り組む。

フォーラムの記録

市長あいさつ

皆さん、こんにちは。八王子市長の石森でございます。外は冷たい雨が降りしきる中でございますが、「市民フォーラム・未来を語る」に、大変多くの皆様方にご来場いただき、ありがとうございます。

この後、ブランドメッセージの発表となりますが、このブランドメッセージ作成に当たりましては、昨年の８月からプロジェクトを組み、多くの市民の皆さん、そして、この後、壇上に上がっていただく先生方に多大なお力添えをいただきました。最終的には、４つのブランドメッセージ候補を作成していただきまして、昨年の 12 月から今年の１月３日にかけて総選挙を行い、約２万 5,000 票の投票をいただいて、めでたく決定をしたところでございます。

八王子はご承知のように、高尾山をはじめとする豊かな自然、そしてまた、歴史に育まれた伝統文化、さらには、多くの大学・企業が立地しさまざまな地域資源を有する、そんなまちでもございますし、同時に高い市民力・地域力も八王子の大きな魅力の一つだと思っております。それらの魅力を一つの言葉であらわすことができないかといったことがきっかけとなり、このたびのブランドメッセージの作成に至ったところでございます。ぜひ多くの方に、このブランドメッセージを活用していただいて、市の内外にこの八王子の魅力を発信していただきながら、この八王子を大いに盛り上げていただきますよう、心からお願い申し上げ、一言ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

リレートーク①

「ブランドメッセージに何を期待する？」

河井 孝仁様　×　森田 哲生様

河井様： それでは、少し話をしたいと思います。私はシティプロモーション、また、それに伴うブランドメッセージなどについて、市民の皆さんや市役所の皆さんと一緒に考える、そんな仕事をしています。

最初のリレートークでは、森田さんからお話を伺います。森田さんはコピーライターというお仕事をされていますので、ブランドメッセージというものについて語っていただきたいのですが、そもそもブランドメッセージって何か意味があるのですかね。

森田様： ブランドメッセージは、大きくは「コピー」の仲間になります。なので、まずは簡単にコピーの話をさせてください。ご存じの方もいるかもしれませんが、八王子や日野、多摩で展開しているエスエストラストさんという不動産会社のお仕事で、大横町に「私より、信号を見て」とか、野猿街道に「“野猿”を“のざる”と読むべからず」というコピーが書かれた青い看板を出していて、話題になったりしているんですよ。あれはいわゆる「キャッチコピー」と呼ばれるものです。どちらかと言えば、商品や会社を覚えてもらうために放送されるテレビＣＭに近い役割があります。

これに対して、今回つくった八王子のブランドメッセージは、八王子市をただの地図上の地名としてではなく、一つブランドとして知ってもらうためのコピーなんです。対象が商品や会社ではなく「まち」になっていて、そのコピーを発信するメディアがテレビや雑誌や看板ではなく、八王子に住んでいたり、関わっていたりする人になる。つまり、ここにいるみなさんにも、日頃の会話の中などで使ってもらってこそ生きるコピー。それが八王子のブランドメッセージということになります。

河井様： そうなると、狭い意味でのキャッチコピーみたいなものが広告媒体から発信されるものだとすると、今回の八王子のブランドメッセージは当事者である八王子の人たちが使うためにあるという考え方でもいいですね。

森田様： そうですね。もっと言えば、ブランドメッセージを自分なりに解釈して、「会話のきっかけ」にしてもらえたらいいなと思ったんですよ。今回、市民のみなさんとワークショップをたくさんやり、そのときに感じたのが、

４つのブランドメッセージ候補

候補Ａ

“だから”のやまだ！八王子

空気も食べ物も美味しい。
都心へのアクセスが便利。
家族も、仕事も、趣味も大切にできる。
個性豊かな文化やひととの出会いがある。

だから、八王子で暮らしていたい。
だから、八王子を訪れたい。
このまちをえらぶひとたちは、
多彩な“だから”を持っています。

八王子は魅力にあふれた“だから”のやま。
一人ひとりの“だから”を分かちあって、
みんなの“たからもの”に変えていく。
そんな欲ばりな力に満ちています。
あなたも八王子で、
“だから”探しをしてみませんか。

候補Ｂ

まじわる、たかまる、八王子

都会のにぎわいと、
自然の心地よさが調和する八王子には、
さまざまな人や文化の「まじわり」をつくり、
独創的な「たかまり」を生み出してきた
風土があります。

子育て、ビジネス、遊び、
学業、ものづくり……
どんな夢や想いにも応えてくれる、
懐の深いコミュニティや文化があります。

あなたも、このまちで、ワクワクするような
「まじわり」と「たかまり」に
加わってみませんか。

候補Ｃ

ちょうど、ハッピー。八王子

八王子の魅力をひとことで
語るのはちょっと難しい。
なぜなら、都会のにぎわいも、
自然のここちよさも、
暮らしやすさも、働きやすさも……
なんでもバランスよく、そろっているから。

ちょうど、ハッピー。

いろいろな人たちが、
それぞれの人生を思いっきり楽しめる。
このまちには、
そんな最高の「ちょうどよさ」があります。

候補Ｄ

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

高尾山にも、体力やその日の気分、
見たい風景にあわせて
えらべるルートがあるように、
人生だって、自分にぴったりと合う、
好きなみちをえらべたほうがきっと楽しい。

都会のにぎわいと自然のここちよさが、
バランスよく調和した八王子のまちには、
多様な生き方、働き方、
学び方、遊び方がえらべる、
なんでもそろった環境と、
やわらかな風土がある。

さあ、このまちであるこう。
あなたらしいみちを。

ワークショップが、いつの間にか「自分が知っている八王子のイケているところや好きなところを自慢し合う会」になっていて、その中で繰り広げられている会話がとても楽しかった。あの熱気や盛り上がりがまち全体に広がったらもっとよくなるのでは？と感じたんです。だから、候補として書いた４つのブランドメッセージ案は全て、「会話のきっかけ」になることを意識して書いています。

河井様：「これ何だろう」という形で、会話のきっかけとなるものをつくろうという発想ですね。

森田様： まだどの案が採用されるのか発表されてないですけれど、いずれにしても、コピーの一部分をちょっと変えて、「私の場合はこうだよ」と会話ができるようにしてあります。

宇都宮市ロゴマーク

河井様： そういう意味では、別に近いわけではないですが、宇都宮というまちがあって、私もちょっとだけかかわったのですけれど、あそこのブランドメッセージが「住めば愉快だ 宇都宮」という言い方をしていて、「住めば」ではなくて、「飲めば愉快だ 宇都宮」とか、「歩けば愉快だ 宇都宮」みたいな形に変えることもできるのです。ある意味では、そういう形でどんどん自分のものにして、変えてもらっても構わないという発想なのですか。

森田様： そうですね。八王子って、名物とか名所が多すぎるじゃないですか。だから、なにか一つのものをシンボルにしづらいところがあるんですよね。ある人が「八王子って美味しいものがたくさんあるよね！」って言ったとして、その話を聞いた人たちが思い浮かべる「美味しいもの」がそれぞれに違ったりする。その違いを開いて、共有していったら、「美味しいものがある」っていう魅力は何倍にも増幅するじゃないですか。

河井様： 「ラーメンのまち 八王子」だとか、「高尾山のある八王子」というのも、それはそれで大事なのだけれども、それだけで終わらずに、ラーメンを推したい人も高尾山を推したい人も、それぞれにいろんな会社を推したい人も、全員が共感し合えるような、あるいは、それを自分なりに変えてもいいような、そういう言葉としてブランドメッセージがあるとおもしろいということですかね。

森田様： そうですね、「あの人はこういうふうにこのまちを楽しんでいるんだな」、「このまちで生きているんだな」というのを知るきっかけになったらと思います。例えるならば、ブランドメッセージは、個人の頭の中に埋もれている魅力を掘り出す“スコップ”みたいなイメージです。みんなが埋もれている魅力を知るきっかけになる言葉として使い、そこから何か運動につながっていったらうれしいなと思います。

河井様： 八王子市のブランドメッセージというのは、“スコップ”である。そういう意味では、それぞれの人たちが自分の中に何となく明確ではなくても八王子についての思いとか、八王子はこんなにすてきなところだというのを持っているのだけれど、なかなかそれが埋まってしまって見えない。ところが、今回の“スコップ”を使って掘り出すと、そこにキラッと光るものが見える。そうした形でブランドメッセージを使えるというのは、おもしろそうですね。

森田様： そうですね。それができたらいいな…と考えつつ、ワークショップから生まれたアイデアをベースに、４パターンの案をつくりました。

河井様： ブランドメッセージをつくっていくワークショップの中で、関わられた方もこの会場にたくさんいらっしゃるのですけれど、どうやったら八王子の魅力を活用して人は幸せになれるのだろうかという物語をつくりました。物語をつくる中で、八王子らしい暮らしというのは、どんなものなのだろう、それは恐らく渋谷とは違うでしょうし、札幌とも違うでしょう。和歌山県にある北山村というところとも違うはずです。

そうしたストーリーのように、個別の魅力だけにとどまらずに、それぞれの魅力をつなぎ合わせていくという意味では、ブランドメッセージは魅力を結んでいく“綱”や“紐”としても使えますかね。

森田様： そうですね。物は言いようですが、本当に“スコップ”や“綱”のような道具として使ってほしいというのはありますね。

河井様： どうしても、ほかの自治体さんなんかでも、ブランドメッセージやキャッチコピー、ブランドステートメントという言い方もするのですけれども、つくった言葉をどうやったらみんなに浸透させられるのかに悩んでいることがすごく多いです。八王子ではどう浸透させられるのか、どう道具として使いこなせるのかという点で大事なことは何でしょう。

森田様： どんどん自由に使ってもらいたいですね。宣伝の道具になってもいいですし、遊び道具になってもいいと思っています。

河井様： そうすると市役所も、どこかの会社がそれを使って変えてもらっても構わないみたいな、そういう形の使い方をしてもらえるといいのでしょうか。自分の会計事務所ではこれをこんなふうに使うとか。自分の八百屋ではこんなふうに使うぞとか、うちのガソリンスタンドではこんなふうに使うみたいな形ができてくると、ちょっとおもしろい動きになりそうですね。

八王子はすごく多様性があって、
いろいろな形の動き方、
生き方ができる。

ブランドメッセージが
「ふだん使いの言葉だね」と言われたら
嬉しいし、それが願い。

森田様： デザイン上、すぐそれができるかはわからないですが、会話の上とか、コミュニケーションの上では何かどんどん自分なりの解釈をもってもらってもいいなと。そもそも自分なりの解釈をもって生きようね、という感じだと思います。

河井様： つまり、八王子に生まれた以上は、こういう生き方をしましょうというよりは、八王子というのはすごく多様性があって、いろんな形の動き方・生き方ができるというのが、やっぱり大事になってくるところですかね。

森田様： はい。「八王子って多様性のまちだよね」というのがこの半年間の中で、改めて感じたことでしたね。八王子で生まれ育って、他のまちでも暮らしてみて、今回のプロジェクトをきっかけにもう一度、まちと向き合って…結局、そこに尽きるんじゃないかなと、思うようになりました。

河井様： 自分なりにつくってきた４つの案が自分にとっても道具になったような意味ですか。

森田様： そうですね。あと、長年コピーとか、言葉の仕事をしてきた中で、言葉がかっこよかったり、それっぽかったりするだけの「飾り」になってしまうと、みんなから忘れられてしまう…という傾向を感じていて、今回は、「いかにもプロがつくったキャッチコピーです！」みたいなものではなくて、「もっとみんなで使ってもらって OK なんですよ」という雰囲気が出せたらと思って書いています。

河井様： それは、おもしろい言葉ですね。飾っておくような言葉だとすると、それは忘れられてしまうかもしれない。でも、毎日のようにそれを使える言葉にして、もっと遊んでもらう、おもちゃにしてもらうということができると、そう簡単には飾られずに済む。自分の手元の中に、場合によってはポケットに入れておきながら、何かあったときに出して使えるようなものでしょうか。自分が八王子に暮らしている、八王子に生まれた、今は八王子から離れているけれども、八王子のことが今でも好きだという人にとっても、それがおもちゃになるような言葉になるといいですよね。

森田様： 本当に、このブランドメッセージが「ふだん使いの言葉だね」って言われたら嬉しいです。それが狙いでもあり、願いでもあります。

河井様： そういう意味では、神棚に上げて拝むものではなくて、むしろ逆に汚していくものなのかもしれませんね。いろんな形で転がしながら、自分なりの汚れをつけていくというような。

森田様： そうですね、身近なものになったらいいなと思います。

河井様： ありがとうございます。この後、実際にブランドメッセージと合わせてロゴマークというものが発表されるのですが、最後に、ロゴもつくるというのはなかなか難しい気がするんですけれど、そういうときに気を使われることはありますか。

森田様： 例えば、最近、注目されているものとしては、オリンピックのロゴマークがありますよね。ああいうロゴって、見た目にすごいし、さらに説明されると「なるほど！」となるじゃないですか。いろんな幾何学模様があって、こういうルールで図形が広がっていきます…みたいな、ものすごく緻密なデザインなんですよね。あれはあれで魅力や役割があるわけですが、今回のロゴはそことは明確に違うものであるべきだと考えていて、デザイナーさんたちには、「説明しなくても、見た瞬間に誰もが知解できてわかるものにしてほしい」とお願いしたんです。

河井様： どんな形で４つの案からブランドメッセージが選ばれ、そして、どんなロゴになったのかということが、これから発表されます。その時間を今から楽しみにしたいと思っています。

では、私と森田さんの最初のリレートークは、ここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

ブランドメッセージ＆ロゴマーク
発表まで
カウントダウン！

つくろう・えらぼうプロジェクトに
15名の公募市民と5名の公募職員が
参加しました。

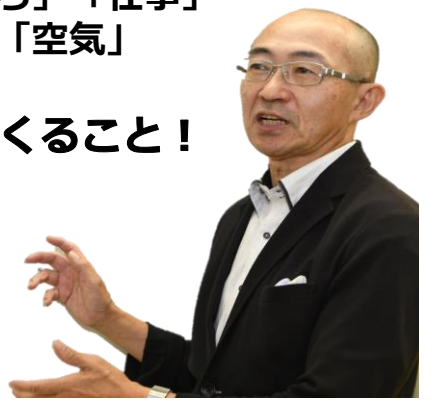
ようこそ！
Welcome
to
つく・えら
プロジェクト
in Hachioji
八王子ブランドメッセージ
つくろう
えらぼう
プロジェクト
つくえら

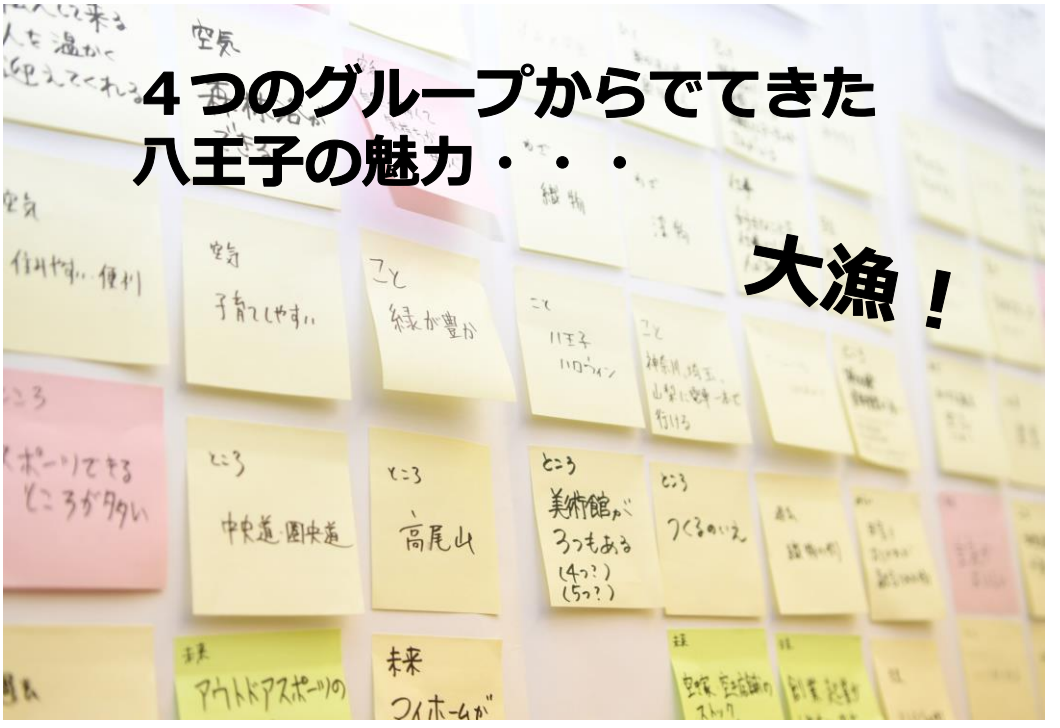
つくえらプロジェクトのはじまりー！

河井アドバイザーからの宿題は…

「ひと」「もの」「こと」「ところ」「仕事」
「わざ」「過去」「未来」「空気」

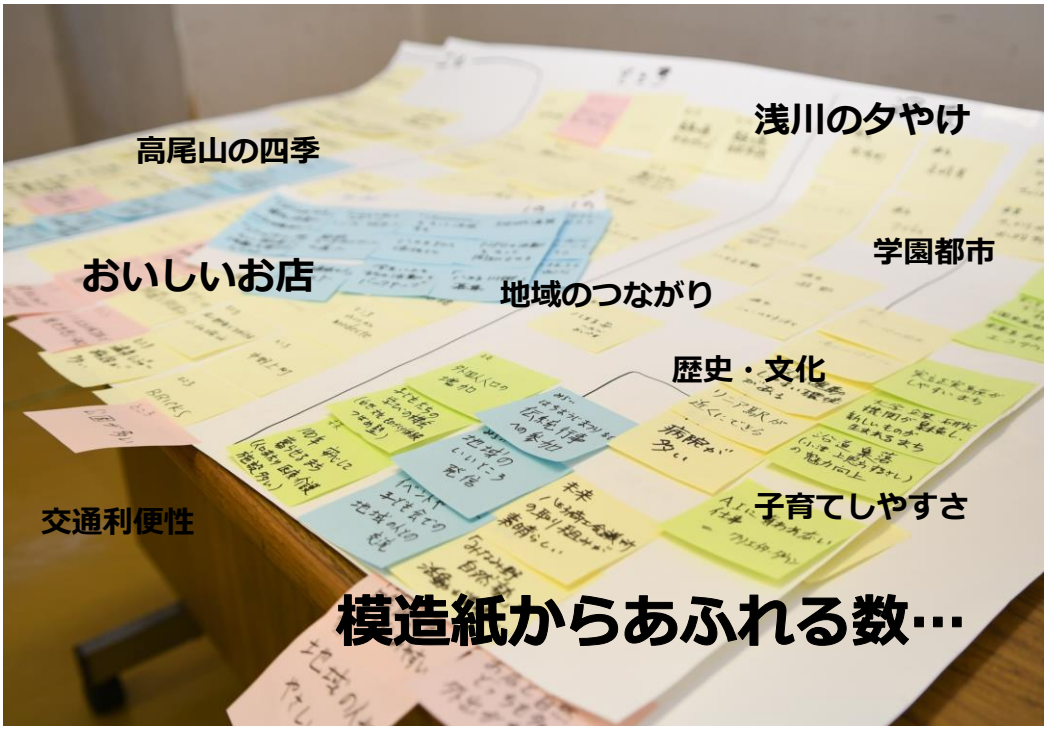
一人30枚以上ふせんに書いてくること！

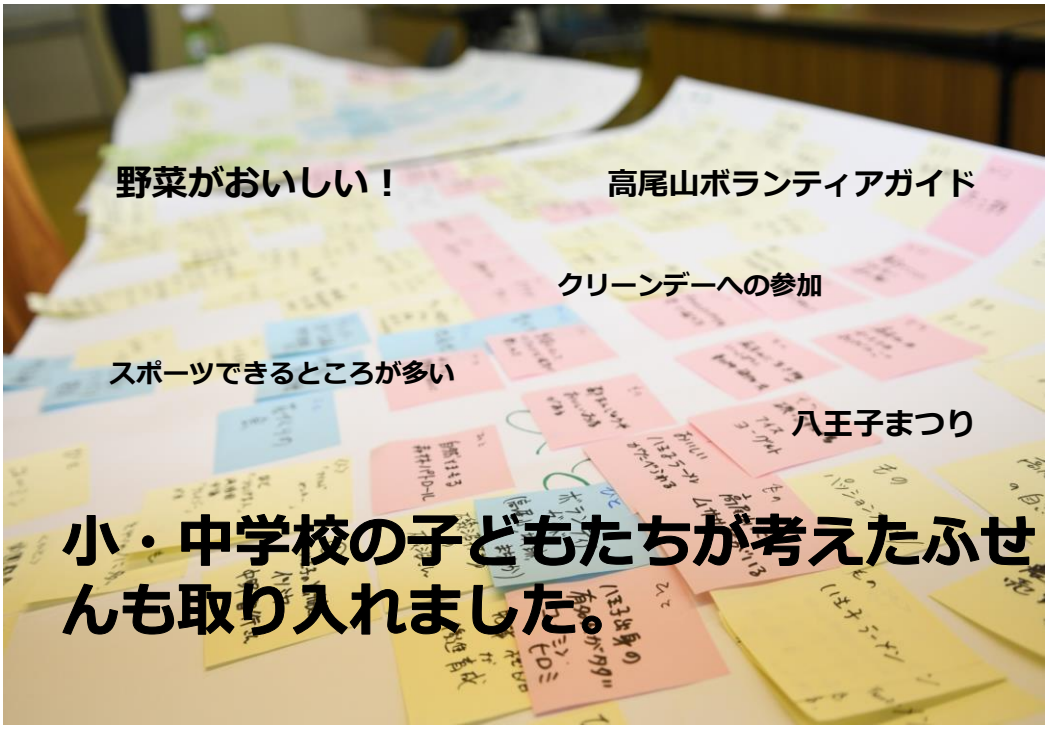




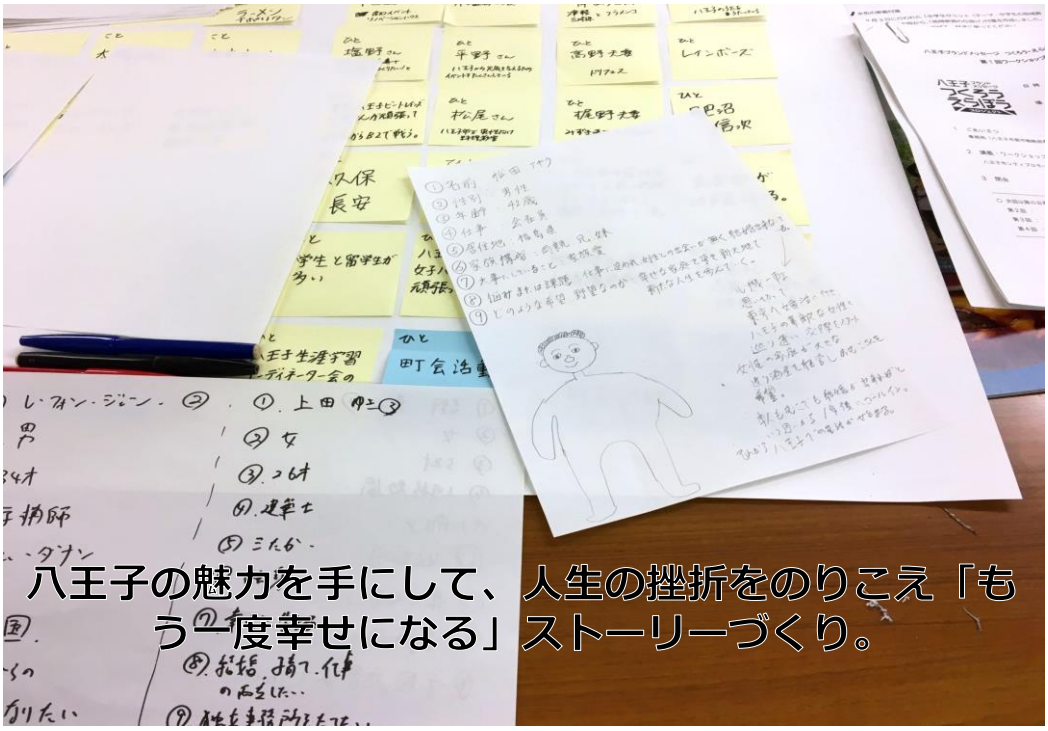
４つのグループからでてきた
八王子の魅力・・・

大漁！

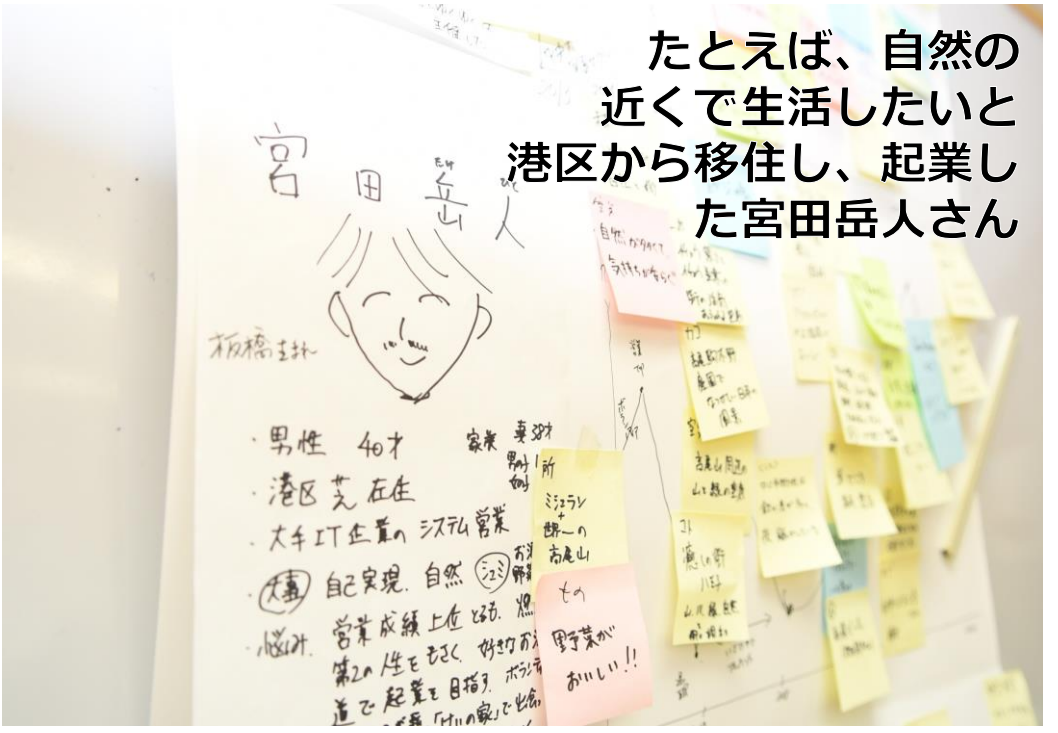

浅川の夕やけ
高尾山の四季
学園都市
おいしいお店
地域のつながり
歴史・文化
交通利便性
子育てしやすさ
模造紙からあふれる数…


野菜がおいしい！
高尾山ボランティアガイド
クリーンデーへの参加
スポーツできるところが多い
八王子まつり
小・中学校の子どもたちが考えたふせんも取り入れました。

「八王子だからこそ幸せになる」
ストーリーづくり。


八王子の魅力を手にして、人生の挫折をのりこえ「もう一度幸せになる」ストーリーづくり。

全部で１２人の
架空のストーリー＆似顔絵が誕生！


たとえば、自然の
近くで生活したいと
港区から移住し、起業し
た宮田岳人さん

たとえば、芸者に
あこがれるも挫折し
染物職人を志す
セリア・バスケスさん

八王子幸せストーリー
追体験ツアー！

ここは、東京？

はい。八王子市高月町。

お父さん、初めての稲刈りに
ドキドキ…

おいしいお酒になーれ！

次は、藤本染工芸で型染め体験

八王子の竹和紙に、伝統技法で色付け

みてみてー！

次は、
創業支援
Ｆａｂｂｉｔ八
王子へ

八王子で
ものづくり起業
した、小林です

山好き！で
八王子に
移住した
池田です

最後のお楽しみ。高尾ビールへ

ここで集大成。
ストーリーに「タイトル」をつける。

タイトル・・・悩む。

楽しく悩む。

113日前

コピーライター・森田さんが
４つのブランドメッセージ案をつくる。

“だから”の
やまだ！
八王子

空気も食べ物も美味しい。
都心へのアクセスが便利。
家族も、仕事も、趣味も大切にできる。
個性豊かな文化やひととの出会いがある。

だから、八王子で暮らしていたい。
だから、八王子を訪れたい。
このまちをえらぶひとたちは、
多彩な“だから”を持っています。

八王子は魅力にあふれた“だから”のやま。
一人ひとりの“だから”を分かちあって、
みんなの“たからもの”に変えていく。
そんな欲ばりなカに満ちています。
あなたも八王子で、“だから”探しをしてみませんか。

35

まじわる、
たかまる、
八王子

都会のにぎわいと、自然の心地よさが調和する八王子には、
さまざまな人や文化の「まじわり」をつくり、
独創的な「たかまり」を生み出してきた風土があります。

子育て、ビジネス、遊び、学業、ものづくり……
どんな夢や想いにも応えてくれる、
懐の深いコミュニティや文化があります。

あなたも、このまちで、ワクワクするような
「まじわり」と「たかまり」に加わってみませんか。

36

ちょうど、
ハッピー。
八王子

八王子の魅力をひとことで語るのはちょっと難しい。
なぜなら、都会のにぎわいも、自然のここちよさも、
暮らしやすさも、働きやすさも……
なんでもバランスよく、そろっているから。

ちょうど、ハッピー。

いろいろな人たちが、それぞれの人生を思いっきり楽しめる。
このまちには、そんな最高の「ちょうどよさ」があります。

37

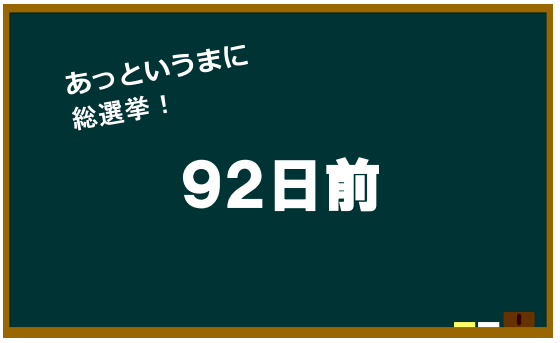
あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

高尾山にも、体力やその日の気分、
見たい風景にあわせて選べるルートがあるように、
人生だって、自分にぴったりと合う、
好きなみちをえらべたほうがきっと楽しい。

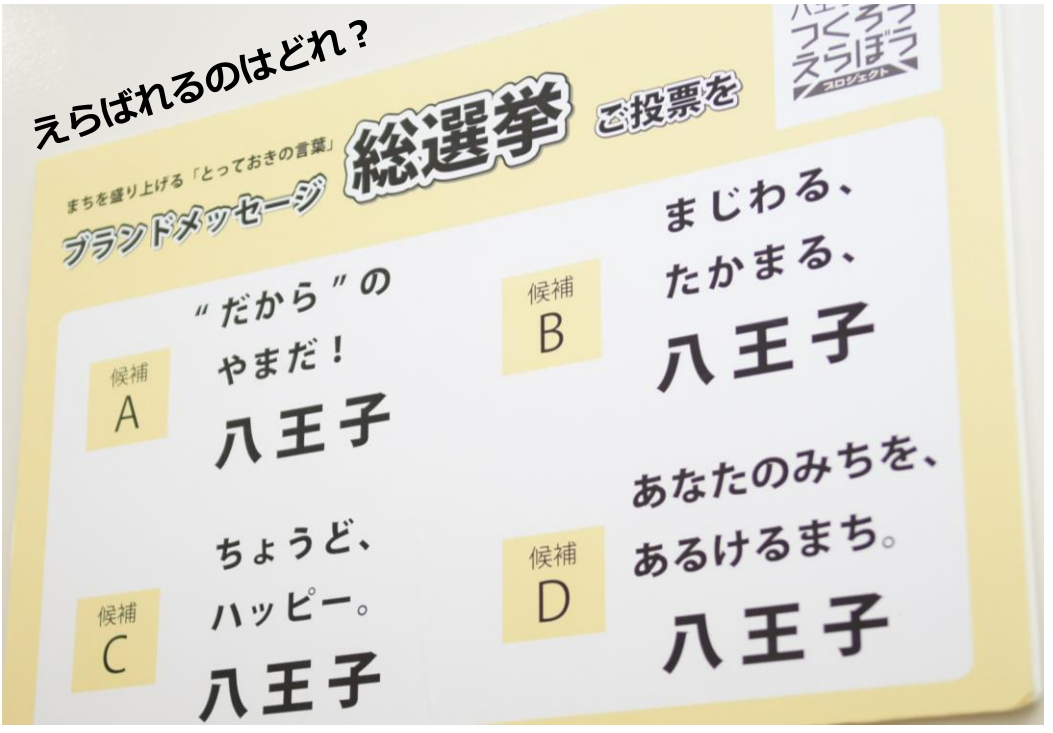
都会のにぎわいと自然のここちよさが、
バランスよく調和した八王子のまちには、
多様な生き方、働き方、学び方、遊び方がえらべる、
なんでもそろった環境と、やわらかな風土がある。

さあ、このまちであるこう。
あなたらしいみちを。

38



ブランドメッセージ総選挙、開始！！



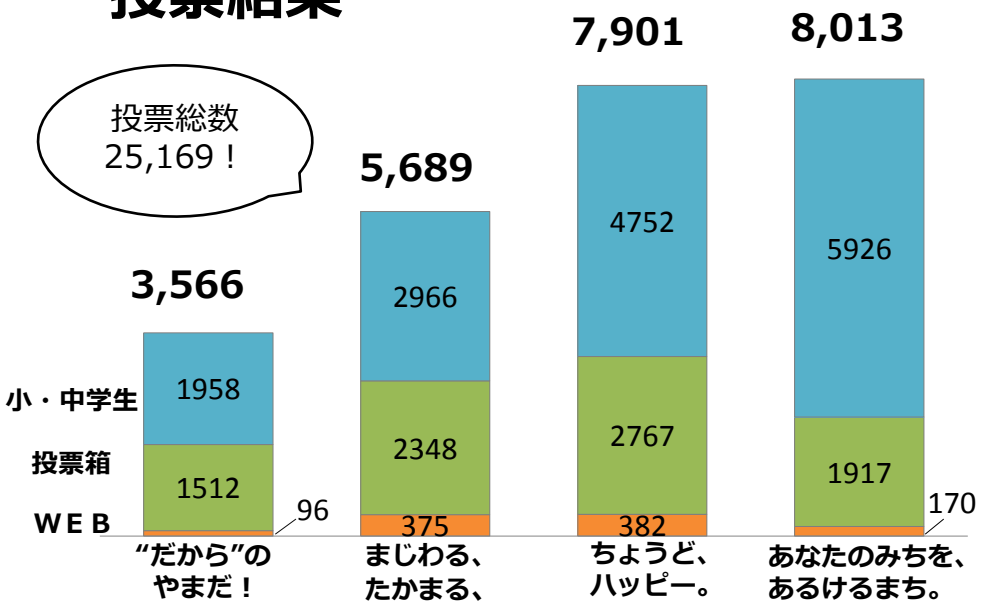
市役所にも投票箱を設置
投票箱
ブランドメッセージ
総選挙 開催！
総選挙
↑ホンモノの投票箱

小学校・中学校
からも、続々と
票が届きます
あなたの一票
どの候補を
えらぶ？
ブランドメッセージ総選挙

いよいよ今日です。

発表まで0日。

投票結果



さあ、
ブランドメッセージ＆ロゴマークの発表は
つくろう・えらぼうプロジェクト
市民メンバーのみなさんから！

ブランドメッセージ＆ロゴマーク発表！

せーの！

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

市長と市民ワークショップメンバーの皆様

市長コメント

ブランドメッセージが完成いたしました。本当に多くの皆様方に、作成に携わっていただきまして、すばらしいメッセージが完成をいたしました。

非常に明るい未来が想像できる、そんなメッセージになったのではないかと思いますけれども、まず全ての市民の皆さんが八王子の将来、夢や希望の持てる、そんなまちづくりを市民の皆さんともに、これからも進めていきたいと思っております。大変ありがとうございました。

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

高尾山にも、体力やその日の気分、
見たい風景にあわせてえらべるルートがあるように、
人生だって、自分にぴったりとあう、
好きなみちをえらべたほうがきっと楽しい。

都会のにぎわいと自然のここちよさが、
バランスよく調和した八王子のまちには、
多様な生き方、働き方、学び方、遊び方をえらべる、
なんでもそろった環境と、やわらかな風土がある。

さあ、このまちであるこう。
あなたらしいみちを。

高尾山をはじめとした豊かな自然
市内を流れる大きな川や広々とした空
まちのにぎわい
鉄道網や道路網、都市の便利さ

リレートーク②

「ブランドメッセージ、どうつかう？」

加藤 真綾様　前原 教久様　萩原 修様　石森 孝志市長

コーディネーター：河井 孝仁様

河井様： それでは、後半のリレートークということで、いよいよ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」というブランドメッセージが発表されたのを受けて、４人の皆さんからお話を聞きたいと思います。

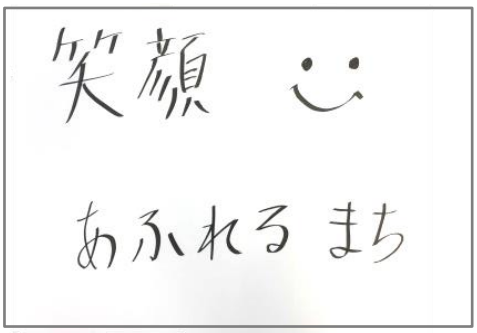
先程市長は、ブランドメッセージが完成したとおっしゃられました。確かに完成かもしれませんが、実はまだまだブランドメッセージは未完成だと思っています。ここに来られた皆さんが、このブランドメッセージを、先程森田さんが言われたように、道具としてどう使うのかによって、初めてブランドメッセージは完成します。いや、ブランドメッセージはずっと未完成なのかもしれません。ずっと未完成なものを、皆さんが道具として、どう動かしていくのかというような話が聞けるといいなと思います。ちょっとハードルを高くして皆さんにお願いをしてみますが、あまり難しく考えず、皆さんだったらブランドメッセージを「こんなふうに使ってみるよ」、あるいは「私はこんなことを大事にしているよ」というふうなものをきっかけに、意見交換ができるといいなと思っています。

それでは、それぞれ自己紹介を少ししていただいた上で、パネルをご用意いただいていると思いますので、そのパネルを自己紹介の後に上げていただいて、「私はこんなふうにブランドメッセージを使うぞ」あるいは、「私は八王子をこんなふうにしたいぞ」、「私はこんなふうに八王子にかかわりたいぞ」というところを、お示しいただければと思います。

それでは、加藤様から、よろしくお願いいたします。

加藤様： 初めまして、八王子在住で、生まれも育ちも八王子の加藤真綾と申します。私は、食事と運動の指導を八王子で行っていて、このたび会社をつくらせていただきました。今回、こちらのブランドメッセージをつくるに当たって、市民ワークショップのメンバーとして活動してきました。

私は、「笑顔あふれるまち」というテーマで皆さんに伝えていきたいと思っています。日々の生活の中で自分自身と家族や子どもたち、親や友達が笑顔でないと元気にはならないということを、運動や食事指導をとおして感じております。このブランドメッセージを機に、自分たちがしっかり笑顔でいられるまちに、八王子がなればなと思っております。なので、私はいろんな仕事場で「笑顔」というキーワードをとてもよく使うのですが、日々の生活で笑顔があふれるように八王子のまちをどんどん活性化できたらと思っております。



河井様： 歩き方として、笑いながら歩いているみたいな、そういう感じですか。

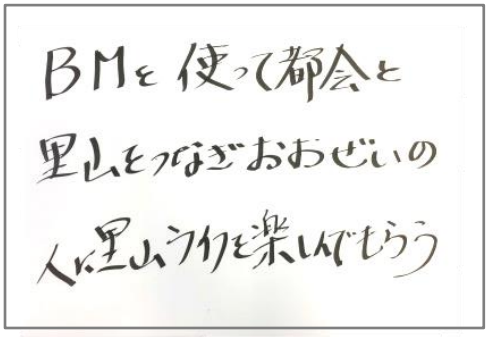
加藤様： そうですね。私は運動の大切さを伝えているので、笑顔をつくるにも笑っているのにも、とても体力が必要だと思っています。元気がない方というのは、歩くときにも背中が丸くなっていたり、どうしても暗い表情だったり、下を向いていたりする方がすごく多いと思います。なので、みんなが真っすぐ上を向いて歩けるような道が、八王子のまちにたくさんあるといいなと思っています。

河井様： ありがとうございます。加藤さんはそういう形で人を笑顔にしながら、また、人がゆっくりとでも、あるいは足早にでも、それぞれの道を歩けるようにしていく、そういうような仕事をされていきたいと。

加藤様： はい。 そうです。

河井様： ありがとうございます。とても、心強い言葉だと思います。
それでは、前原様、自己紹介の後に考えるところを教えていただきたいと思います。

前原様： 小津町（おつまち）に住んでいます前原といいます。小津町と言いましたけれど、皆さん、八王子に小津町なんて町があるということを知らない人っていますか。【会場挙手】
ありがとうございます。半分ぐらいいたらどうしようかなと思ったのですけれど。小津町は八王子の一番西部に位置しています。そこの町会で、まちづくりということをちょっと考えてやっていまして、先ほど決まりました「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」というブランドメッセージに当てはめると、どんなことかなということで考えてみました。地域にはさまざまな魅力というか資源があり、そうした地域の魅力を生かしながらまちづくりをする道を、同じような志をもった仲間と一緒になって、楽しみながらゆったりと歩けるようなまち、八王子を作る。これが今の私を取り巻く環境かなと考えています。



このブランドメッセージをどういうふうに使うかについて、先ほど裏のほうでパネルを書いてくれと言われて、私は一生懸命考えて書きました。現状はこんなことですよというのがあって、まちづくりには取り組んでいますけれども、実際にブランドメッセージをどういうふうに使うか。これが先程のリレートーク①で単なるキャッチコピーみたいなものじゃないよと言われて、またちょっと大変になったかなという部分があります。

実は、今取り組んでいる活動の中では、キャッチコピーみたいなものを利用して呼びかけたりしています。例えばどんなことかというと、「東京なのに、こんな里山」。東京都であるにもかかわらず周りに山がいっぱいある、そんな感じがするということです。それから、「住んでみれば乙（おつ）な町」。住んでみるとなかなかいいところだよという、そんなイメージを表しています。

今度のブランドメッセージをどういうふうに生かすかというのが、これからの課題だと思うのですけれど、外向けの情報発信のときに、例えば広報紙であるとか、イベントのチラシでそれを使いながら、田舎という言葉は最近余り使わないで、里山という言葉を使うのですけれど、里山と都会を結びつけて、つなげて、できるだけ都会の人に来ていただいて、そこで楽しんでもらえるようなまちにできればいいなという思いでいます。

河井様： ありがとうございます。たとえば、先ほどの加藤さんの考え方をブランドメッセージにつなげていけば、あなたのみちを“笑顔で”あるけるようにするということになるかと思います。

前原さんは、例えば、あなたのみちを“乙に”ですかね。あなたのみちを仲間と乙に歩けるようにする。仲間と乙に歩くためには、走り出していてはなかなか乙には歩けないかもしれないので、ゆっくり歩くと。ゆっくり歩くためには、車がどんどん走っているよりも里山の道を歩いたほうが、乙にゆっくり歩けるかもしれないと考えると、それを加藤さんの力を借りて少し健康に、元気に、笑顔になりながら、乙に歩けるといいなと、そんな感じにつながりますかね。

前原様： そうですね。今日、このフォーラムをとおして、いろんなこれからのヒントというのが得られるかと思います。

今取り組んでいる中で、こんなことをやろうというコンセプトをつくっています。私たちの地域は市街化調整区域のため、地域外の人は新たに家を建て、移住はできません。地域でも人がいっぱい来ればいいかというと決してそう思っていなくて、現在は豊かな自然があり、人家が点在していて、暮らすには気持ちがいいという環境があります。ですから、自然環境とか住まいの環境はそのまま維持しながら、地域にある魅力とか資源を生かして、まちづくりをしようということをモットーにしてやっています。

もう２年ほど活動を続けていますけれども、やりながらいろいろ考えられるまちづくりの１０カ条というのを決めています。その中にも「いつも笑顔で」というのを入れています。

河井様： ありがとうございます。また、ぜひその辺は、加藤さんと意見交換しながら進められるといいかなと思います。

前原様： そうですね。

河井様: それでは、続きまして萩原先生のほうから、自己紹介を兼ねて教えていただきたいと思います。

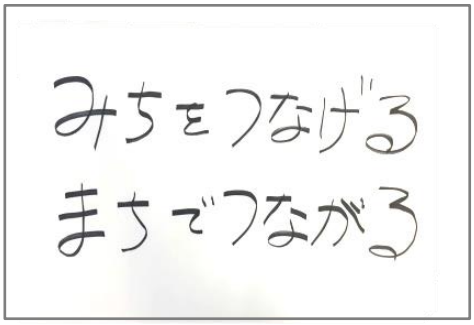
萩原様： 先ほどの発表を見ていても、みんな楽しそうで、あまり難しい話はできないなと思いました。八王子の端っこにある明星大学に、５年前にデザイン学部ができました。石森市長も明星大学のご出身ということで八王子には縁がある大学だと思います。デザイン学部なので、どうしてもロゴマークがどうなっているのだろうみたいな話に行きがちなのですが、ブランドメッセージは楽しそうなロゴになっていて、歩けるというところがわかりやすくロゴに生かされているのと、４色で楽しい感じにデザインされていると思いました。

今のお二人の笑顔や里山という八王子の方向性みたいなことは、多分住んでいる方がよくわかっていると思いますが、それを外から見てどうなのというと、実はよくわかりません。

「たまら・び」という雑誌を何年か前につくった経緯で、八王子の人に集まってもらっていろんな話を聞いて、本当に八王子のことが好きな人が多いのだなと感じました。ここにも八王子が好きな人が集まっていると思うのですが、好きなまちをこれから自分たちでどうしていくのかということを、それぞれ考えているのではないかと思います。実はデザイン学部ってこういうビジュアルロゴをつくったりするだけではなくて、その前の企画の部分が結構大事で、地域の課題を解決するとか、新しい価値を創造するということをやっています。

実は来年度４月から、八王子市役所さんから課題を四つもらいました。一つは、団地のコミュニティをどうやってつくっていくかというテーマです。それからもう一つは、銭湯をどう活用するかというテーマ。それから、清掃センターですね、環境・教育みたいなことをどうするか。それから、もう一つが文化・芸術をどうするかという、この四つの、結構大きなテーマをいただいて、それに学生と取り組みます。学生はいっぱいこの八王子のまちに住んでいると思うのですけれども、意外と地域とのつながりが少ないというのを思い知らされているこの５年間です。もっと地域の人と直接学生が対話できたり、一緒に何か取り組むことができたらいいなというふうに思っています。

僕が説明するのも変なのですけれども、このロゴをつくってくれた TRICKY（八王子にあるデザイン会社）は、学生のころの地域との活動がきっかけで、出身でもないのに八王子に残って地域でデザインをしていて、すばらしいなと思っています。うちの学生にも、八王子出身がいます。八王子に住んでいる学生もたくさんいるので、ぜひ残ってもらって、自分の道を歩いていってほしいなと。僕は大学の教員もしているので、学生がその後、八王子のまちに残って自分の道を歩けるようになるということを、このブランドメッセージから読み取って、「あなたのみちを、あるけるまち。」というのを、まさに学生にとってもこれから八王子で生きていく、仕事をしていくことができるような、そういうつながりを増やしていけばいいのではないかなという気がします。



僕は外から見た八王子なので、八王子そのものだけではなくて、周りとのつながりという意味では、やっぱり道はつながっているので、パネルに言葉を書きました。「みちをつなげる・まちでつながる」ということで、やっぱり人がつながっていけるかどうかというのは、道を一人で歩いていくだけではなくて、そこでいろんな人に出会ったりということだと思うので、さらに八王子の周辺の町ともつながっていければいいなと。僕もどちらかというと、八王子に遊びに来たり、あるいは、大学に教えに来たりという関わり方なので、そういうつながりというのを大事にできるようなブランドメッセージになったらいいなという気がします。

河井様： ありがとうございます。今、すばらしい言葉を教えていただいて、道をつなげるという、道はつながるのだというのは、改めて認識させられた気がします。どうしても最近ギスギスしていて地域間競争みたいな話があって、八王子はどうやって町田に勝つのかとか、八王子は青梅より強いのかといった話が多くなってしまうのですけれど、萩原先生の言葉を聞いて、むしろ連携ができるから、つながるからこそさらに八王子の力が高くなるということを再認識させられました。あるいは、八王子の力をどんどん利用してもらって、多摩全域が元気になってもらえばいいのではないか、いやいや東京が、日本が元気になってもらえればいいのではないかというような。八王子は実は日本に、世界に貢献できる力をすごくもっているわけですよね。そういうことをすごく意識させられるご発言だったなと思いますし、「あなたのみちを、あるけるまち」の、あなたというのを、これから学生が他人事ではなくてこのあなたになってほしい、学生が自分なりに大事だと思う道を歩けるようなまちになっていくのが八王子だという捉え方も大変学びになりました。

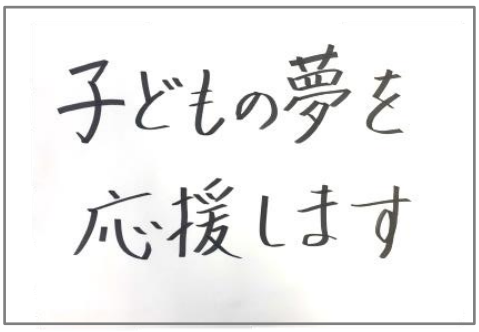
また、一番はじめに八王子の四つのテーマに取り組むというお話があり、これからデザインの力でいろんなことが解決されていくと思うのですけれども、そのときに、どの方向に向けて解決をするのかといったときに、それぞれ渋谷に負けないように解決をするのか、あるいは、日本の平均に向けて解決をするのかというと、実はそうではなくて、八王子が「あなたのみちを、あるけるまち。」になるように解決をしていく。四つの課題をいずれも、あなたの道やそれぞれの個性、違いを大事にし、またいろんなつながりを大事にすることができる形で解決をしていくというお話として伺いました。非常に学びになったと思います。

続きまして、市長からご発言をいただきたいと思います。

石森市長：生まれも育ちも八王子の石森でございます。「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」というブランドメッセージに決定をいたしました。これにつなげるには、八王子は一昨年、100 周年という記念すべき年でございましたが、「新たな 100 年への道を市民の皆様とともに歩けるまち」というのを、発表したいなと思っております。

平成 29 年に 100 周年を迎え、２年間にわたって 250 を超える記念事業を実施し、全て無事終了いたしました。これも八王子のもつ市民力・地域力の高さがそういう結果に結びついたのかなと思っております。八王子はいろいろ魅力があるまちでもございますから、これからまた、ぜひ私自身も、このブランドメッセージを活用しながら発信していきたいと思っておりますし、これからまた市民の皆さんが、いろいろ八王子の事業にも携わっていただいて、より郷土愛を育んでいただくこと、この八王子に誇りをもっていただくことも非常に重要だと思っておりますので、そんなまちづくりを進めていきたいと思っております。

私がパネルに書きましたのは、「子どもの夢を応援します」まさしく 100 周年事業におきましては、ぜひ若い世代の皆さんが、できるだけ事業にかかわってほしいと、そういう大きな狙いがありました。小学生・中学生、いろんな形でかかわっていただきましたし、特に教育現場でもこの 100 周年にかかわっていただき、感じ取っていただく、そんな事業を展開してまいりました。



新年度におきましても、できるだけ子どもに焦点を当てました。特に重点項目といたしましては、次代を担う子どもの支援、そしてまた、その家庭を支援、これはさまざまな事業、新たな事業を計画しています。特に今、子どものいろんな環境面の問題というのが非常に浮上しております。全ての子どもたちが平等に、環境によって左右されないように、できるだけその夢や希望をもっていただきたい。そんな大きな願いがございますので、そういうところに集中的に支援をしながら子どもたちが大きく成長してほしいと願っております。

河井様： ありがとうございます。子どもが自分の道をしっかり選べる。あるいは、子どもが自分の道を安全に歩ける。子どもがその道をわくわくしながら歩ける。そういうふうにするために、どんなまちをつくっていくのか、一番の責任者としていろいろ期待をするところが大きいです。

では最後になりますが、一人ずつ、加藤様から、市長がおっしゃられた子どもの夢を応援するということについて、何ができると思いますか。

加藤様： 私自身、上は中学３年生から下が５歳までの４人の子どもを育てるママです。その学年によってアプローチの仕方はいろいろ変わってくると思います。特に八王子はいろんな文化・特色があるので、子どもの小さいうちから、いろんな文化に親しんでもらって、それを大人になるにつれて、受け継いでもらい、また外に向けてどんどん発信することによって、八王子をもっと外にアピールできるのかなと思っています。

河井様： ありがとうございます。子どもが、自分の道を歩きながら積極的に語れるようになれるように、加藤さんの力で支えてもらえると、すごくすてきなまちにさらになっていくと思います。

次に前原さんは、子どもの夢を応援するために、何ができると思いますか。

前原様： 夢というより、すごく現実的になってしまうかもしれないのですが、実は今一緒に取り組んでいる仲間はほとんど定年を過ぎている大人の集まりで、そういう大人も夢を持つ必要があると考えています。子どもということでは、今現在でも子ども対象のいろんなイベントも考えていまして、実際には収穫体験だとか、木工の体験などをやっています。これからは、夢というテーマのイベント的なことをやって、そこへ子どもたちに参加してもらって、夢を実現できるようなお手伝いができるといいかなと思っています。

河井様： ありがとうございます。子どもたちの夢というものを、里山だとかいろんな現場でつくっていただけるような形ができるとうれしいなと思います。

最後に萩原先生から、子どもの夢を応援する、しかも「あなたのみちを、あるけるまち。」で応援をするというふうに考えたときに、萩原先生は、あるいは大学は何ができるのでしょうか。

萩原様： 僕は、教育ということで言うと、やっぱり家庭の教育と学校教育と、あと地域の教育・社会教育という、その三つがばらばらになっている現状を、どうやってつなげていくかということが大事なのかなと思っています。多分、教育行政ということでは八王子市も取り組んでいると思うのですけれども、そこに大学が、どうかかわれるのか。実は明星大学は教育の明星という形で、教育ということを少し強く押し出して、大学生に対しての教育もそうですし、教育学部があるということもそうなのですけれども、デザインというのもそういう意識で教育のデザインみたいなことも、僕自身はすごく意識してやっていきたいなと思っています。

実は昨日なのですけれども、天気がよくて、日野市の山で切った間伐材をあきる野市にもっていって製材してもらって、今度大学で机をつくるという３日間のワークショップの１日目で、家族でそこに参加して間伐の体験をして製材所を見てきました。さっきの里山につながる話で、八王子も山があるのですけれども、多分、林業という形ではなくて、山をうまく生かした子どもたちの、教育ができる下地が八王子というまちにもあるという気がします。そういう取り組みを大学として、あるいはデザイン学部としても何かサポートというか一緒にできるといいかなというのを、今話を聞いて思いつきました。

河井先生： ありがとうございます。これはおそらく市長がおっしゃられる子どもだけではなくて、いろんな人、ここに来られている年齢はそれぞれの人たちも、家庭があり、学びがあり、地域もある。もう一度ブランドメッセージに戻せば、そういう中でそれぞれがどうかかわりながら、自分の道をどう歩けるのかが大事ですね。皆さんのお話をぜひ市長に聞いていただいて、それを実現に向けて支えていただけるようにお願いをしたいと思います。

それでは、後半のリレートークは終わらせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

ワークショップ

「わたしたちのブランドメッセージ

―つかって八王子を元気にしよう！ー」

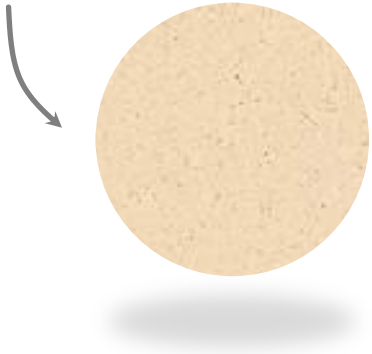
ファシリテーター：河井　孝仁様

ワークショップ １周目	６人組になり、「えんたくん」（※）を囲む。 **「 ブランメッセージをどう使うか」** **「 八王子をどんな風にしたいか」** **「八王子でどのように暮らしたいか」** 以上についてそれぞれ書き、書き終わったら１人ずつ思いを話す。
ワークショップ ２周目	６人のうち、３人が違うグループに移動する。 新しく参加した人は、すでに書かれている内容を読み、もともといる人は説明し情報交換。
ワークショップ ３周目	さらに３人が違うグループに移動 **「今日参加して、自分にできると思ったこと」**　を書く。
発表	話した内容を発表！

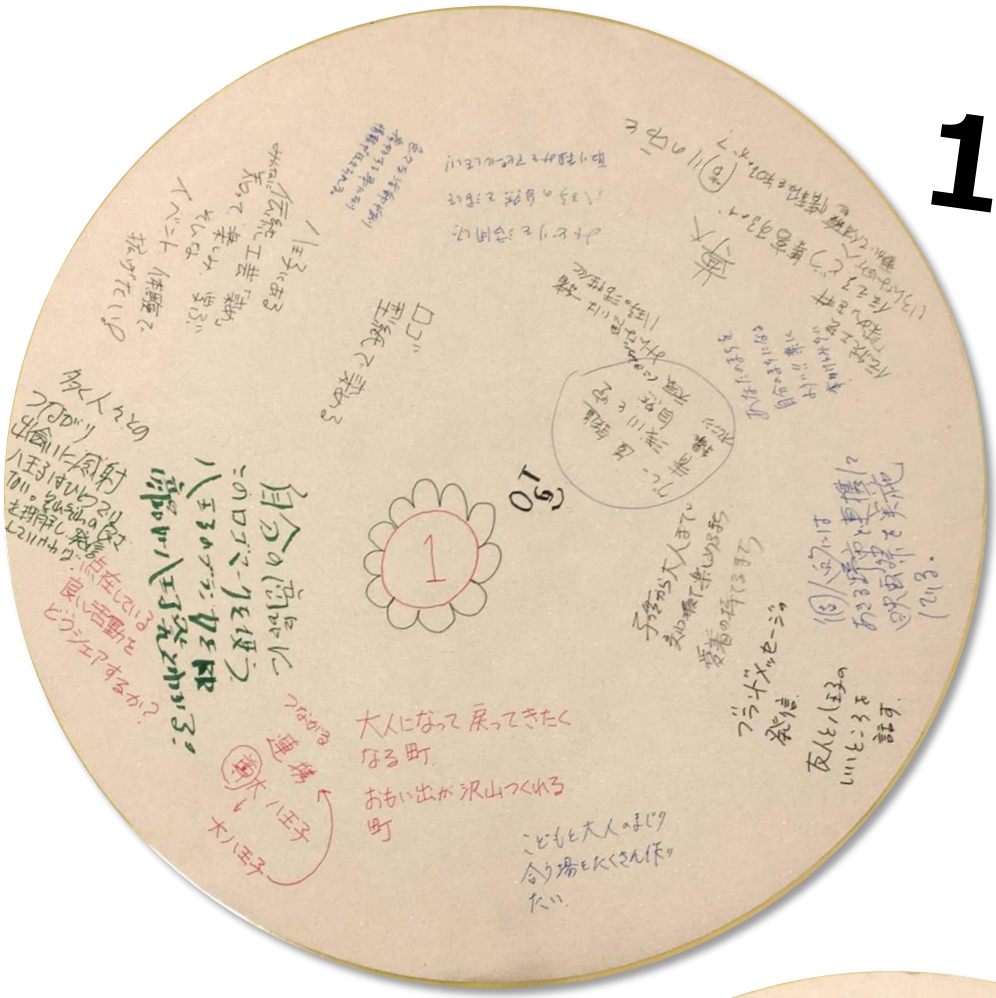
※　「えんたくん」とは？

　直径１ｍの円形ダンボールの上に、クラフト紙を重ねたもの。膝の上で支え合って、テーブルのように使う。

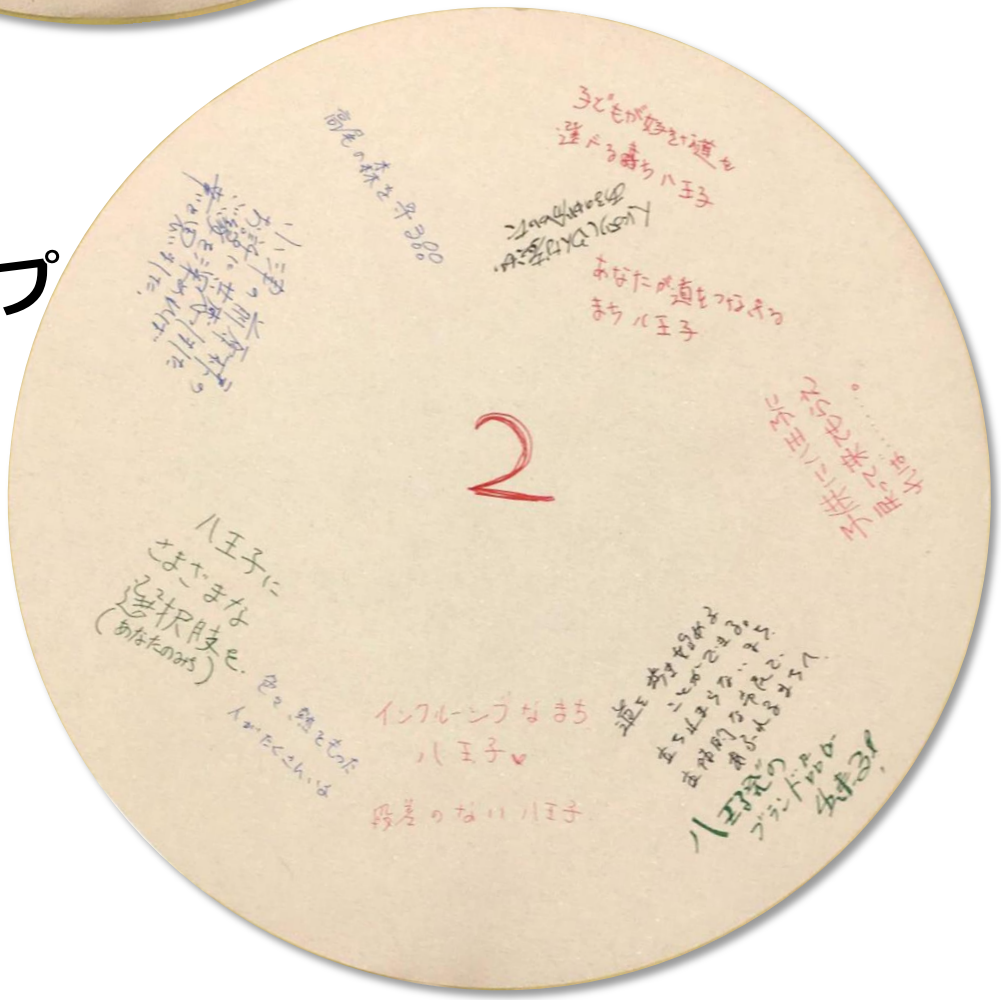
　話しながら、「えんたくん」に直接書き込むことができる。



各グループの「えんたくん」



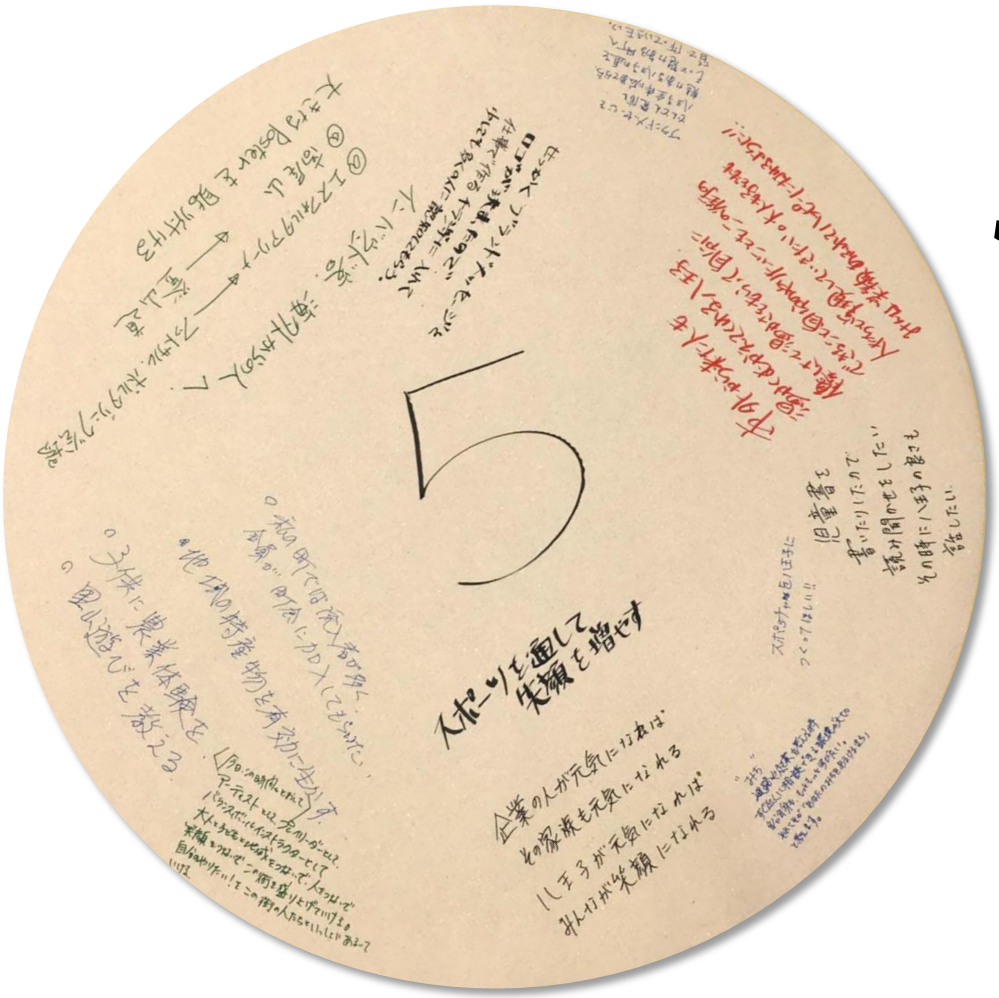
1 グループ



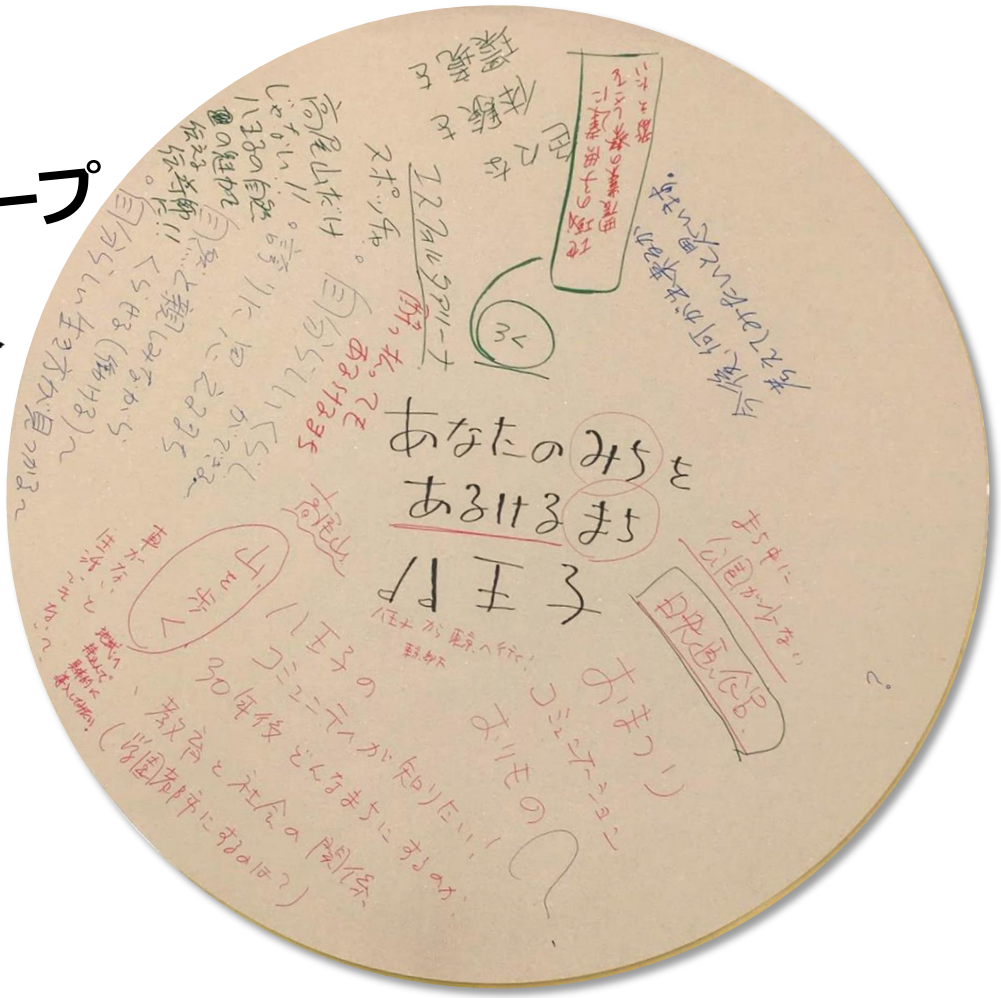
2 グループ

3 グループ

4 グループ



5グループ



6グループ

えんたくんを囲み、話が盛り上がります…！

ブランドメッセージ、どう使う？

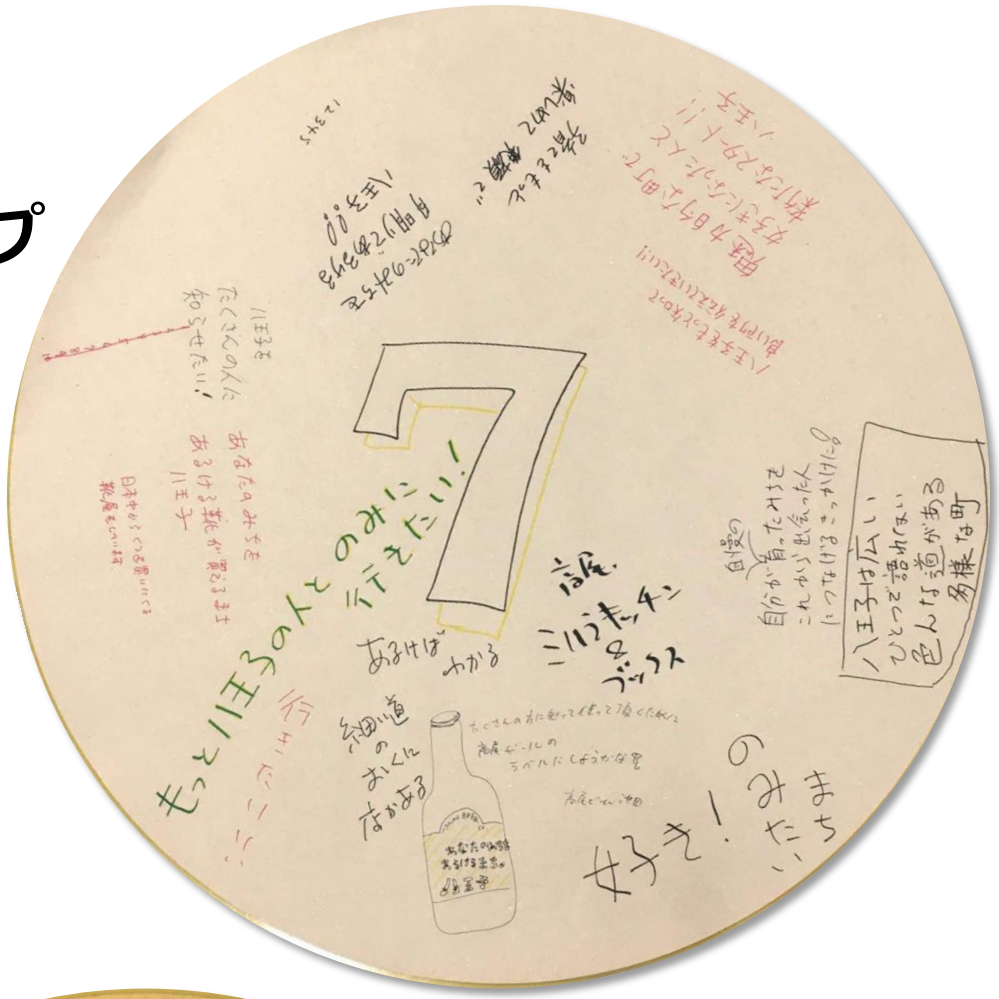
あなたのみちを、あるけるまち。八王子

八王子でこんな風に暮らしたい！

八王子をあんな風にしたいな。

自分にもこんなことができるかも！

7 グループ

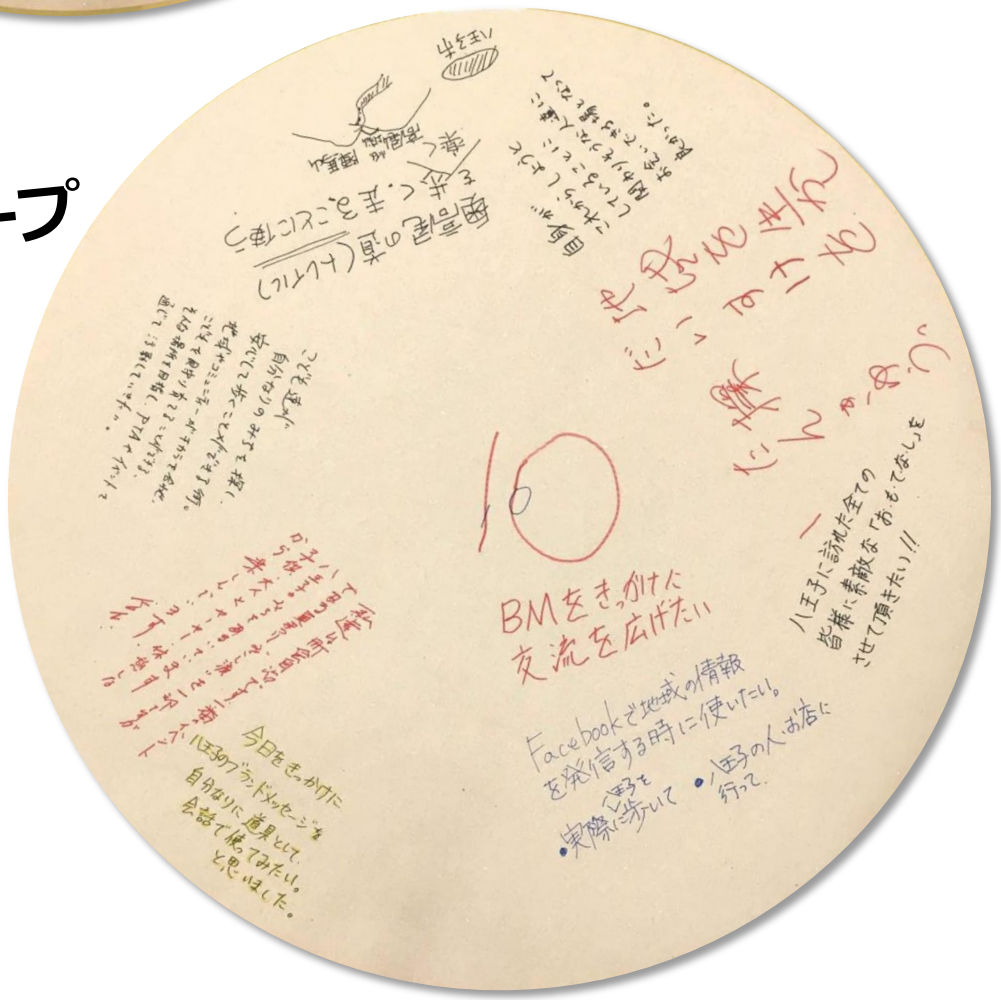

もっと八王子の人とのみに行きたい！
7
八王子は広い
ひとつで語れない
多様な町
自分が育ったまち
これから出会った人
につなげるきっかけに
自慢の
好き！
ごはんのみせ
細い道のおくにながある
話題
こだわりポイント
ブックス
あるけば棒にあたる
八王子
おなたのみせも
あるけば棒にあたる
八王子
たくさんの人に知ってほしい！

8 グループ

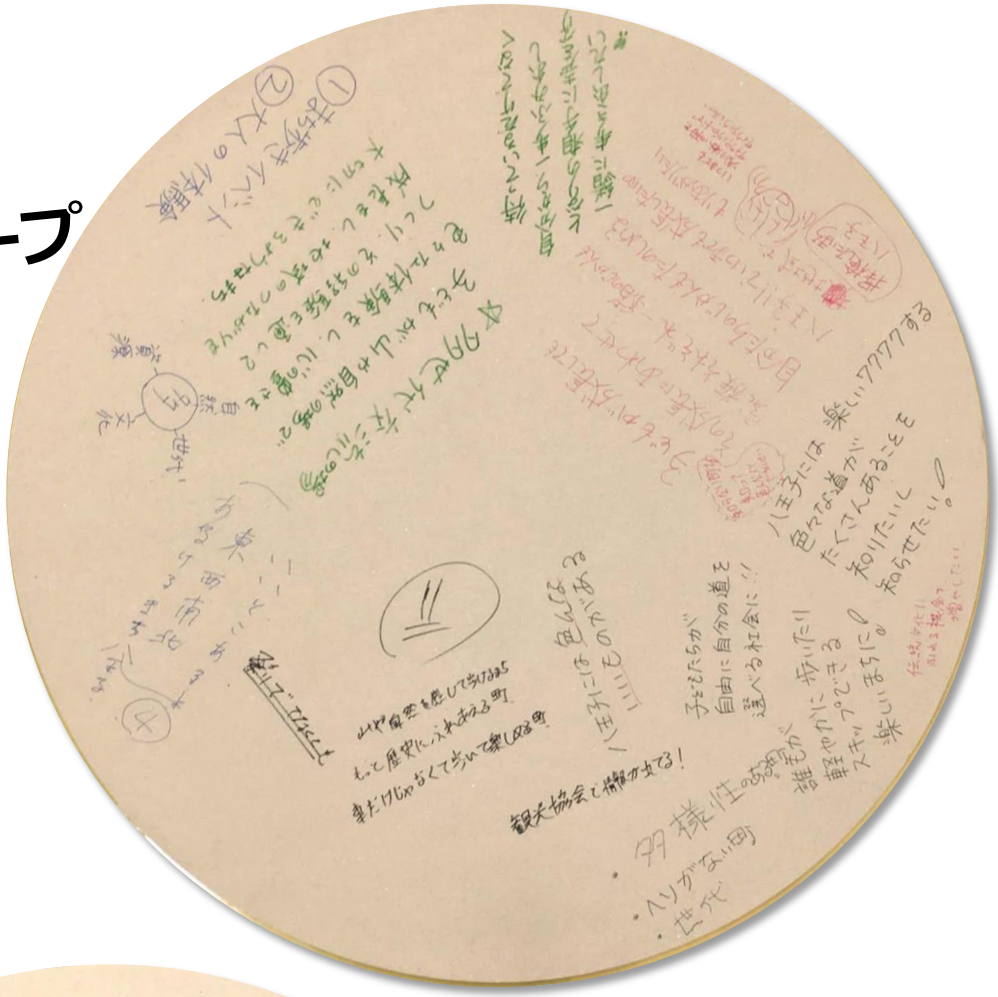
8
好き！
八王子は自分を
育ててくれたまち！
自分が好き！楽しい
そこんな人が増えるように
私は一生住み続けるまちだ。

9 グループ

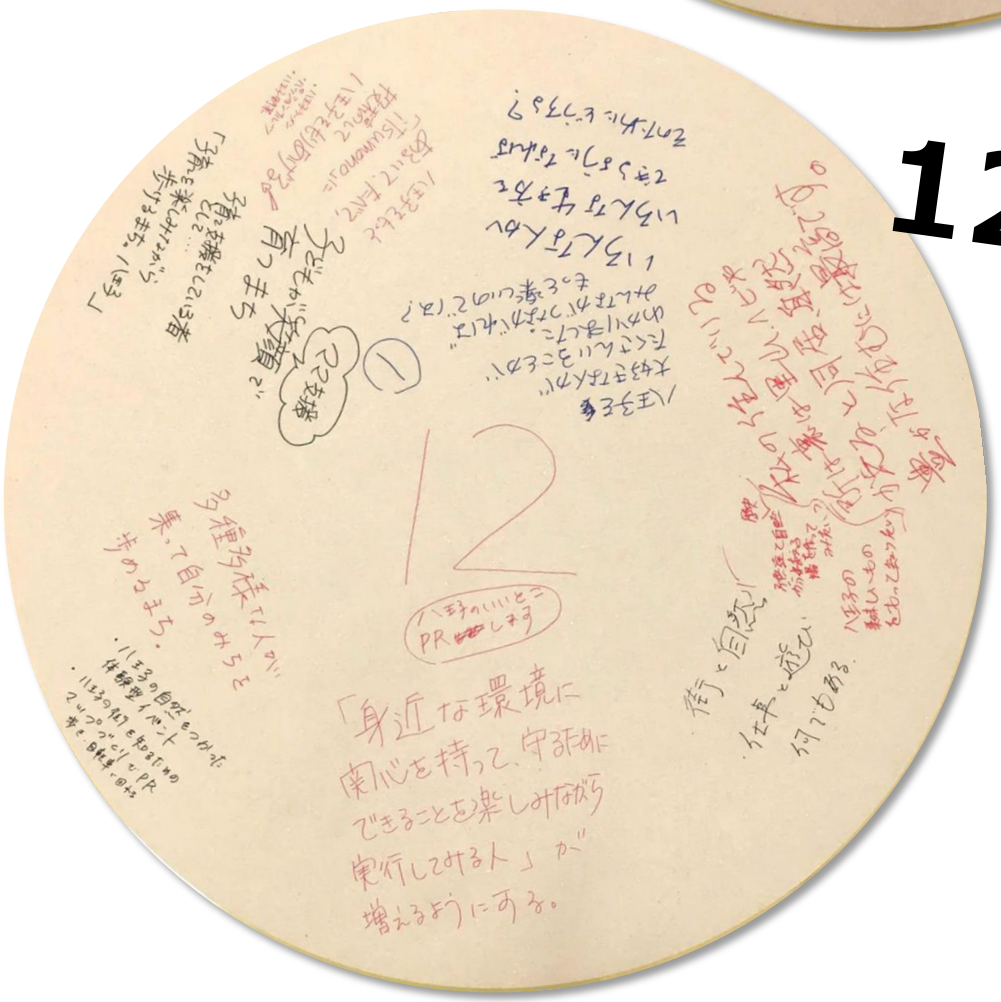
10 グループ



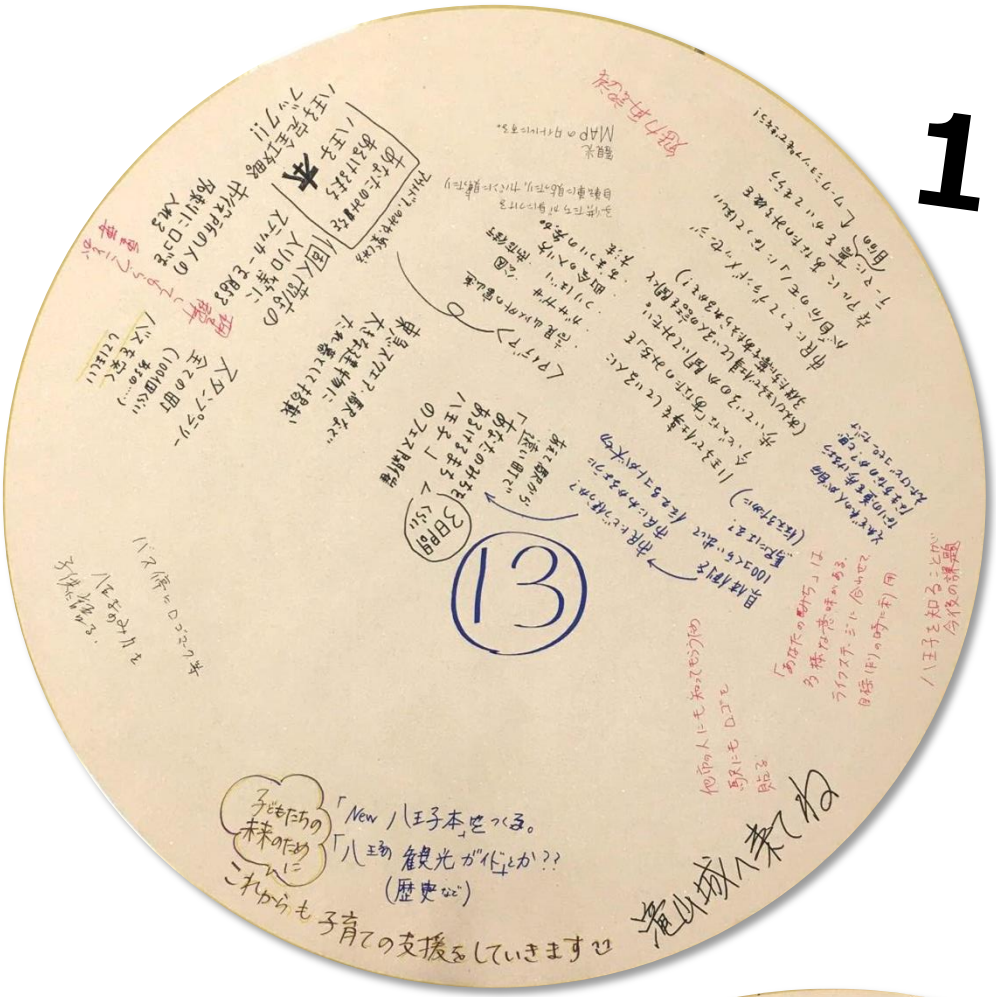
11 グループ



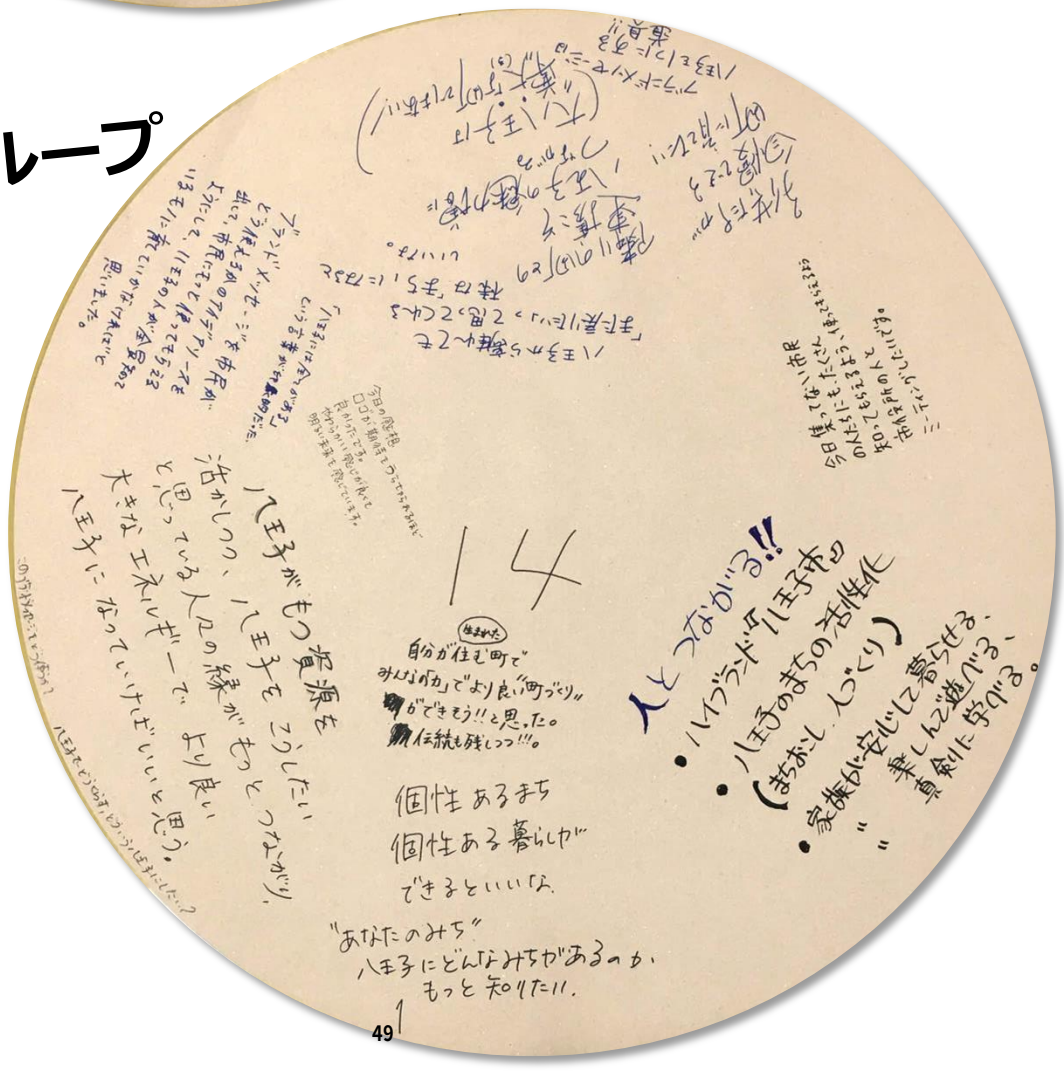
12 グループ



13 グループ



14 グループ



ワークショップ発表

自分自身が染め物をやっていることもあって、色がとても気になっていまして、このブランドメッセージをどうやって広げていくのかを話す中で、まずこの色がどういう意味があるのかという話になりました。グレーが道・鉄道、青が浅川と空、緑が自然、オレンジはまちのにぎわいということだったと思います。

これを自分の知識として人に伝えて八王子のブランドメッセージを広げていく。そんな話で盛り上がっていたのでそれを伝えたかったです。

山崎さん

河井様： この４色って何なんだろうというのを、ぜひ皆さんの中で知識として覚える。でも、それだけじゃないかもしれません。私にとっては、オレンジは違う意味をもたせたいとか、私にとっては青はこういう意味だよというのを考えてもいいかもしれません。それぞれが自分の八王子、自分の歩ける道という４色を考え、そういうことによって単純にこの言葉を広げるのではなく、森田さんがおっしゃっていただいたように、これをスコップとしてどう使うのかということを考えてもらえる。そういうきっかけになるように思います。すばらしい形の提案をありがとうございます。

この場へ参加させていただきまして、皆さんが世代間の交流をいかに促進していくかということを気にされているということを実感しました。

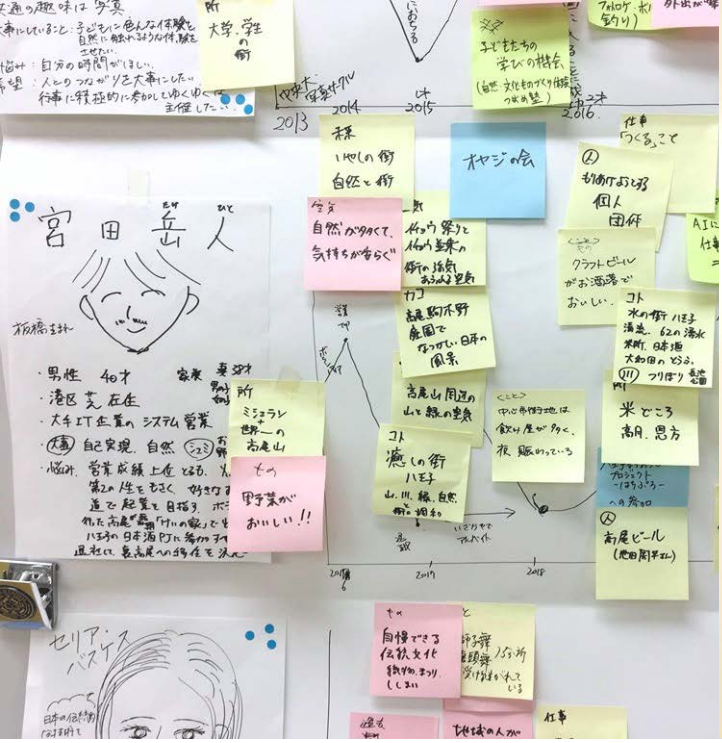
ブランドメッセージにもあるように、あなたの道を歩けるまちということで、どのように、将来にわたって八王子をつくっていくかという話の中で、今後、今八王子に在住されている学生さんを引きとめて若い世代を定着させていくためにも、多世代間の交流を促進させることが大切という意見がありました。

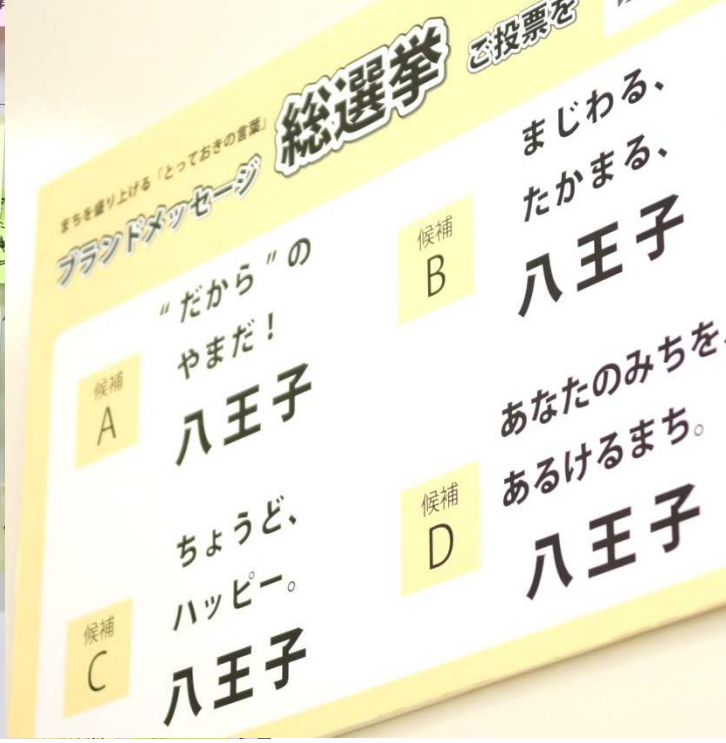
「不特定多数の人と人生を歩んでいく」ということが、今、私のテーブルの手元に書いてありまして、そのことに関しては、今日この会に参加させていただいて達成できたのかなと思いまして、今日を第一歩としてこれからも頑張っていきたいと思っております。

蒲生さん

河井様： ありがとうございました。最後はすばらしい決意発表で終わりました。
これをもって、「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」、皆さんがこれをどうつかっていくのかを考えるワークショップを終わりたいと思います。皆さん、ご協力ありがとうございました。

巻 末 資 料





\ もっと /

「八王子を元気にする言葉」できました。

公式ブランドメッセージ＆ロゴマーク発表！

市民がつくった、まちを盛り上げる「ブランドメッセージ」。
子どもも大人も参加した総選挙の約25,000票によって
ついに決定しました！　3月3日は、そのおひろめとともに
自分のまちを楽しく元気にしていくための
みなさんの声やアイデアをきかせてください。

これからの八王子、どうつくる？

市民フォーラム・未来を語る 「ブランドメッセージ発表会＆ワークショップ」

平成31年
3月3日（日）
14：00～16：00
（開場：13：30）
八王子市学園都市センター
イベントホール（旭町9-1
八王子東急スクエア12階）
※駐車場のご用意はありません。

コーディネーター
河井 孝仁さん
（東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
八王子市シティプロモーション事業推進アドバイザー）

リレートーク
森田 哲生さん　（八王子市出身コピーライター）
加藤 真綾さん　（市民ワークショップメンバー）
萩原 修　さん　（明星大学デザイン学部教授）
前原 教久さん　（八王子市町会・自治会連合会）
石森 孝志　　（八王子市長）

定員140名・参加費無料
託児あり（要事前申込）
手話通訳・要約筆記あり

問い合わせ先
八王子市　総合経営部広聴課
☎　042-620-7411
FAX　042-620-7322

都市戦略部都市戦略課
☎　042-620-7335
FAX　042-627-5939

ブランドメッセージで八王子をもっと元気にしたい。

どんな
メッセージに
決まったの？
！？

どうつかって
どう元気に
なるの？

なんだか
わくわく
する！

ブランドメッセージは、
まちをみんなで盛り上げていくための合言葉。
みんなでつくって、えらんだメッセージを
つかってみたり、実現にむけたアイデアを考えたり。
これからの八王子ライフをいっしょにおもしろくしませんか。

市民フォーラム･未来を語る
「ブランドメッセージ発表会＆ワークショップ」

主なプログラム

八王子市ブランドメッセージ ＆ ロゴマークの発表
▼
リレートーク　「ブランドメッセージに何を期待する？」
▼
ワークショップ「わたしたちのブランドメッセージ」

自分色の
マジックペン
持参もOK!

コーディネーター ＆ パネラー

コーディネーター　河井 孝仁さん
東海大学文化社会学部広報メディア学科 教授。
総務省地域情報化アドバイザー、日本広報学会常任理事等。
多数の自治体のシティプロモーションに関わる第一人者。
八王子市シティプロモーション事業推進アドバイザー。

森田　哲生さん
多摩美術大学卒。コピーライター。株式会社Rockaku（ろっかく）代表取締役。今回、ブランドメッセージのコピーライティングを担当。

萩原　修さん
明星大学デザイン学部教授。「中央線デザインネットワーク」「国分寺さんち」など、多摩地域を元気にするプロジェクトを推進中。つくし文具店店主。

加藤　真綾さん
市民ワークショップメンバーとして、ブランドメッセージ作成に関わる。八王子を拠点に、バランスボールインストラクターとして活躍中。

前原　教久さん
小津町会会長。地域課題の解決のため、「ＮＰＯ法人小津倶楽部」を立ち上げ、古民家のリノベーションによる交流拠点づくりなどを行っています。

ブランドメッセージができるまで

公募で集まった市民代表のみなさんによるワークショップで、八王子の魅力や「八王子で実現できる幸せのストーリー」を検討。そのストーリーをもとに、八王子出身のコピーライターが４つの候補を作成し、平成30年12月に総選挙を行いました。市内小・中学生の意見も作成過程に反映され、総選挙にも参加しています。

八王子ブランドメッセージ つくろう えらぼう プロジェクト

ブランドメッセージ総選挙へのご協力、ありがとうございました！

「市民フォーラム・未来を語る」参加者アンケート

参加者 110 名　回答者 51 名　回収率 46.36%

本日は、「市民フォーラム・未来を語る」にご参加いただきありがとうございました。お手数ですが、以下のアンケートにご協力をお願いします。（該当するものに○をつけてください）

あなたご自身についてお聞かせください。

性　別：　男 **(58.8%)**　女 **(31.4%)**　未記入 **(9.8%)**

年　齢：　20 歳未満 **(2.0%)**　20 代 **(7.8%)**　30 代 **(25.5%)**　40 代 **(13.7%)**
50 代 **(17.6%)**　60 代 **(7.8%)**　70 代 **(11.8%)**　80 歳以上 **(9.8%)**

お住まい：　市内 **(76.5%)**　市外 **(11.8%)**　未記入 **(11.8%)**

職業等：　自営業 **(19.6%)**　会社員 **(27.5%)**　農・林業 **(0.0%)**
公務員（市職員 **(17.6%)**・その他 **(0.0%)**）　アルバイト・パート **(2.0%)**
（専業）主婦・主夫 **(2.0%)**　小学生 **(2.0%)**　中学生 **(0.0%)**　高校生 **(0.0%)**　大学生 **(0.0%)**
専門学校生 **(0.0%)**　大学院生 **(0.0%)**　無職 **(15.7%)**　その他 **(3.3%)**　未記入 **(7.8%)**

1．『市民フォーラム・未来を語る』を何でお知りになりましたか。（○はいくつでも）

⑴　広報はちおうじ **(19.6%)**　⑵　ホームページ **(7.8%)**
⑶　ツイッター・フェイスブック **(5.9%)**　⑷　新聞 **(0.0%)**
⑸　ポスター・チラシ **(23.5%)**　⑹　友人・知人から **(31.4%)**
⑺　その他 **(27.5%)**　未記入 **(5.9%)**

2．本日のフォーラムに参加して、あなたの「気持ち」がどのように変わったかを教えてください。

（１）「自分のまちの魅力を、家族・友人・知人におすすめしたい気持ち」は高まりましたか。

⑴　とても高まった **(72.5%)**　⑵　やや高まった **(19.6%)**
⑶　変わらない **(3.9%)**　未記入 **(3.9%)**

（２）「自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したい気持ち」は高まりましたか。

⑴　とても高まった **(72.5%)**　⑵　やや高まった **(23.5%)**
⑶　変わらない **(2.0%)**　未記入 **(2.0%)**

3．ブランドメッセージについて、「こう使いたい」というアイデアやご意見がありましたら、自由にお書きください 。

4．本日のフォーラムは、いかがでしたか。

⑴　良かった **(86.3%)**　⑵　まあまあ良かった **(7.8%)**
⑶　あまり良くなかった **(0.0%)**　⑷　良くなかった **(0.0%)**　未記入 **(5.9%)**

ご意見やご感想などを自由にお書きください

ブランドメッセージを「こう使いたい」というアイデア

1. いろんな人と出会うこと。多世代交流。伝統文化にふれる機会で。　（20 歳未満　女性）
2. 八王子青年会議所事業に取り入れたい（20 代　男性）ほか 1 名
3. たくさんの人がたくさんの解釈をして使ってほしい。十人十色。（20 代　男性）
4. 人がたくさん集まる街になってほしいです。そのために、このブランドメッセージが広まり、行きたい街になり、八王子の街のすばらしさを感じてもらうと市民の皆が明るくなり、地域価値の向上につながる。（30 代　男性）
5. ツイッターでハッシュタグ。ステッカーにして駅前で配る。（30 代　男性）
6. 様々な企業や学校いろんな所がブランドメッセージを自分たちの感覚で使ってＳＮＳで発信する。（30 代　男性）
7. 名刺に入れます。バスに掲示（30 代　男性）
8. 「本」にする。観光ガイドや食の本、子ども向け（子育て）の本⇒来街者を増やす！！

（30 代　女性）

9. くまもんの戦略を参考にして、民間（企業）にどう使っていただくか、今後の展開イメージ（戦略）を構築することが大切。今日はスタートの日です。今後の取り組みに期待します！（40 代　男性）
10. ＢＭをもとに、メッセージを広げてほしい。萩原先生のトークみたいに。（40 代　男性）
11. 八王子の散策動画でキャッチ的に入れたいけど、ＯＫでしょうか？　（40 代　男性）
12. ブランドメッセージを理解することになり、色々な活動に参加することに使える　。

（40 代）

13. 名刺・氏名票にカラーで印刷したものを使いたい。市発行のあらゆる冊子・チラシ・ポスターにも（50 代）
14. “まちあるき”やります！（50 代　女性）
15. 決定したメッセージはブランド品につける等の場合はなかなか使いづらい。使い方にどう自由度をもたせることができるかが使う時の鍵となる。（60 代　男性）
16. 自分に出来ることをすこしずつ実行したいと思います。
17. 町会に広く広めたい（70 代　男性）
18. ６地域が楽しく笑顔でつながるまちになればと思います。（80 歳以上　男性）
19. このブランドメッセージは私の作る商品につかい、八王子発のブランド品の名を高めたい。（80 歳以上　男性）
20. 少なくとも「広報はちおうじ」に毎号 300 字程度のコラム欄を使って、このブランドメッセージを根底にした文を掲載。筆者は一般市民から募る。意識の浸透を図るため、特に恩方、由木両地区の人たちを忘れないこと。（80 歳以上　男性）
21. ＪＲの「そうだ京都に行こう」のように、京王やＪＲなどと一緒に八王子の良い所をめぐるモデルコースなどを作って宣伝してほしい。例）ファミリー層なら公園とかまわって 1 日過ごせるコース・歴史コースなら城めぐり（記入なし）

ご意見・ご感想

1. 話を聞いて気持ちを変わらせる人がいるんだなと知りました。（20 歳未満　女性）
2. 聴覚障害の方のためにノートテイクの画面を用意していたと思いますが、手話の方もいたのでいらないのではと感じました。また、ノートテイクは「光が反射」「紙送り」等で見えにくい、目が疲れる等も感じました。（途中解決しましたが）。色々な人と会えた、これが一番！（20 代　男性）
3. 参加して非常に良かった。様々な職業、立場の人と触れ合えた。（20 代　男性）
4. この道を行けばどうなるものか・・・アントニオ猪木とタイアップ企画お願いします。

   （30代　男性）
5. 自身が会いたかった人達に会えて良かった。（30 代　女性）
6. 市外から参加しましたが、自分の街を考える市民の皆さんの熱量を受け、自分にできることをこの街の人たちと音楽を通じて盛り上げていきたいです。（30 代　女性）
7. 市民を巻き込んだ会はつづけてほしい！！（30 代　女性）
8. 色々なワークショップに参加したいと思います。（40 代）
9. ４色の意味づけで説明するのがとてもいいと思いました。八王子愛がみなさんすごいなと思いました。Itsumono がんばります。おもしろかったです。（40 代　女性）
10. 行政側は市民の声を後押しするのが役目というが、市民をリードする意識を忘れている。広い、古い新市民が多い。言い訳の単語は少々聞き飽きた。美味しいシルコも多少の塩加減を必要とするが、行政のリードは甘すぎる。言葉遊びで終わらないように。

    （80歳以上　男性）
11. リレートーク①の対談形式は内容が深まり、興味深かったです。ワークショップは有意義でした。（50 代　女性）
12. 多様な人とのつながりができました。八王子は元気ですね（50 代　男性）
13. 「あなたの」という言葉がやや自分の目線ではないため、だれがだれのために言っているメッセージなのか？が不明。だれがどうこの言葉を使うかがむずかしいという印象がある。「あなた」ではなく、「わたしの」とする方が良いのでは。（60 代　男性）
14. ありがとうございました（記入なし）
15. なごやかな雰囲気だった。リレートークいろんな話が聞けてよかった。人によってまちの考え方、捉え方が勉強になった。（記入なし）

平成 30 年度 市民フォーラム・未来を語る 記録集

平成 31 年（2019 年） 3月

発行　八王子市 総合経営部 広聴課

八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号

電　話 042（620）7411（直通）

ＦＡＸ 042（620）7322